

Site Studio Publishing Utility 管理ガイド

10g リリース 3 (10.1.3.3.0)

部品番号 : B51310-01

2008 年 11 月

Site Studio Publishing Utility 管理ガイド, 10g リリース 3 (10.1.3.3.0)

部品番号 : B51310-01

原本名 : Site Studio Publishing Utility Administration Guide, 10g Release 3 (10.1.3.3.0)

原本協力者 : Will Harris, Sean Cearley

Copyright © 2007, Oracle. All rights reserved.

制限付権利の説明

このプログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記載された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。

独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段（電子的または機械的）、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このプログラムは、核、航空、大量輸送、医療あるいはその他の本質的に危険を伴うアプリケーションで使用されることを意図しておりません。このプログラムをかかるとして使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Oracle, JD Edwards, PeopleSoft, Siebel は米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性があり得ます。

このプログラムは、第三者の Web サイトへリンクし、第三者のコンテンツ、製品、サービスへアクセスすることがあります。オラクル社およびその関連会社は第三者の Web サイトで提供されるコンテンツについては、一切の責任を負いかねます。当該コンテンツの利用は、お客様の責任になります。第三者の製品またはサービスを購入する場合は、第三者と直接の取引となります。オラクル社およびその関連会社は、第三者の製品およびサービスの品質、契約の履行（製品またはサービスの提供、保証義務を含む）に関しては責任を負いかねます。また、第三者との取引により損失や損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

目次

1 はじめに

パブリッシュのガイドライン	1-2
Site Studio のページのカスタマイズに関するガイドライン	1-2
ドキュメント	1-4
このガイドで使用されている表記規則	1-4

2 スタート・ガイド

新しいパブリッシュ先の作成	2-2
Site Studio Web サイトのパブリッシュ	2-3
パブリッシュのエラー処理	2-4
エラー処理のカスタマイズ	2-6
標準 HTTP エラー・コード	2-7

3 Publishing Utility の管理

Current status	3-2
Add website	3-2
All destinations	3-4
Create new destinations	3-4
Event logs	3-5
Create event log	3-6
ロギング機能	3-7
View log messages	3-8
General settings	3-9

4 構成 (XML) 要素

ベース要素	4-2
フィルタ	4-7
filterset 要素 (job 要素の子)	4-7
filter 要素 (filterset 要素の子)	4-10
authentication 要素 (filterset 要素の子)	4-12
トリガー	4-13
cmd トリガー	4-13
http-post トリガー	4-14
Java トリガー	4-15
Java トリガーのプログラミング	4-15
サンプル	4-16

シンク	4-16
job 要素および filter 要素の DTD	4-17

A 構成ファイルのプロパティ

root 要素	A-2
options 要素	A-2
timeFormat 要素	A-6
log 要素	A-6
ロギング・レベル	A-7
ロギング機能	A-7
proxy 要素	A-9
ssl 要素	A-10
services 要素	A-11
admin-server 属性	A-11
content-server 要素	A-12
ice-server 要素	A-13
master-server 要素	A-14
database 要素	A-15
content-sources 要素	A-16
extensions 要素	A-16
factory 要素	A-16
ldap 要素	A-16
j2ee 要素	A-18
knet 要素	A-19
license-server host 要素	A-19
knet-server host 要素	A-19
soap-server host 要素	A-20
tracking-server host 要素	A-20
clickthru-server 要素	A-20

B サード・パーティ・ライセンス

概要	B-2
Apache Software License	B-2
W3C® Software Notice and License	B-3
Zlib License	B-4
General BSD License	B-5
General MIT License	B-5
Unicode License	B-6
その他の帰属	B-7

索引

はじめに

この管理ガイドでは、**Site Studio Publishing Utility** を使用して **Site Studio Web** サイトをパブリッシュする方法を説明します。**Site Studio** では、作成した **Web** サイトをコンテンツ・サーバーに格納します。将来のある時点で、そのサイトをコンテンツ・サーバーからコンテンツ・サーバー・インスタンスを実行していない **Web** サーバーへパブリッシュすることも考えられます。この処理をパブリッシングと呼びます。

Publishing Utility を使用すると、コンテンツ・サーバー環境から純粋な **Web** サーバー環境 (**Microsoft IIS** や **Apache** などを実行する環境) へ、**Site Studio Web** サイトをパブリッシュできます。

Publishing Utility は、**Web** サイト内のすべてのリンクをトラバースし、各ページおよび各ページの全リソース (イメージ、**Flash** ムービーなど) のコピーをダウンロードして動的サイトの静的スナップショットを作成します。**Web** サイト全体 (問合せのコンテンツ、レイアウト・ページ、フラグメント、コントリビュータ・データファイルおよびシステム固有ドキュメントを含む) は、コピーされて新しいサーバーにパブリッシュされます。

この章の内容は次のとおりです。

- [パブリッシュのガイドライン](#)
- [Site Studio のページのカスタマイズに関するガイドライン](#)
- [ドキュメント](#)
- [このガイドで使用されている表記規則](#)

パブリッシュのガイドライン

コンテンツ・サーバー環境から Web サーバーへ Web サイトをパブリッシュするには、Publishing Utility を使用してサイトのすべてのコンテンツをコピーする必要があります。ただし、サイトのコピーは、完全に自己完結している必要があります。つまり、元のサイトの全リソースがコピーに含まれており、コピー自体に含まれているリソースのみをコピーが参照していることが必要です。自己完結型のコピーを作成するために、Publishing Utility は、元のサイトに含まれている絶対（完全）URL を相対 URL に書き換えて、異なるホスティング・インスタンスで静的コピーがホストされるようにします。

特定のページに含まれているリンクおよびリソースを識別して評価するために、Publishing Utility では次の手順が使用されます。

- HTML を処理する場合は、リンクが含まれる可能性があるタグ内のすべての属性（たとえば A タグ内の HREF 属性や IMG タグ内の SRC 属性）を探して、これらのイメージをダウンロードします。そのリンクが絶対リンクの場合は、元のイメージではなく、（相対 URL を介して）ダウンロードしたイメージを参照するように、コピーしたサイト内のリンクが更新されます。詳細は、1-2 ページの「[Site Studio のページのカスタマイズに関するガイドライン](#)」を参照してください。
- JavaScript を処理する場合は、新しいイメージのロードまたはページの表示内容の変更に一般的に使用される特定の JavaScript コマンドを探します。このような特定のコマンドを検出すると、JavaScript を評価して各コマンドを解析します。ただし、認識できない JavaScript コマンドは、参照されるページが含まれない、またはイメージのダウンロードに失敗するなどの原因になります。詳細は、1-2 ページの「[パブリッシュされたページのリンクでの JavaScript の使用](#)」を参照してください。

注意：詳細は、Site Studio のドキュメントを参照してください。

Site Studio のページのカスタマイズに関するガイドライン

Site Studio で生成された JavaScript をカスタマイズする場合や独自のコンポーネントを記述する場合は、スクリプト内で参照されるすべてのイメージやムービーなどに、必ず相対 URL を使用してください。リソースへのパスを作成するのに文字列を連結しないでください。

Publishing Utility で外部参照が正しく識別および評価されるように、これらの点に注意してください。

これらの項目が動的リストに含まれている場合や JavaScript パターンを使用している場合には、特に注意してください。また、パブリッシュされたページのネーミング規則にも注意してください。

パブリッシュされたページのリンクでの JavaScript の使用

パブリッシュされた Web ページで使用するリンク内で JavaScript パターンを指定することがあります。JavaScript 参照およびリンクをパブリッシュされたバージョンで相対参照に変換するために、Publishing Utility では、特定のパターンを使用してこれらの参照を識別および評価する必要があります。

Publishing Utility は、Web ページの埋込み JavaScript 内で特定のパターンを探します。これらのパターンが検出された場合、Publishing Utility は JavaScript を評価してコマンドを解析します。

- Publishing Utility は、新しいイメージのロードまたはページの表示内容の変更に一般的に使用される、汎用 JavaScript パターンを評価します。詳細は、1-3 ページの「[汎用 JavaScript パターン](#)」を参照してください。
- また、Site Studio 固有の特定の JavaScript パターンも評価します。詳細は、1-3 ページの「[Site studio 固有の JavaScript パターン](#)」を参照してください。

注意：認識できない JavaScript コマンドは、参照されるページが含まれない、またはイメージのダウンロードに失敗するなどの原因になります。

次に示すすべてのパターンでは、二重引用符 (") および一重引用符 (') は同等として扱われます。**太字**のすべてのデータは例です。クローラは、引用符の中にあるすべての有効な URL の一致を試みます。

汎用 JavaScript パターン

JavaScript フラグメント	トラバース対象リンク	置換
"http://www.foo.com/test.html"	http://www.foo.com/test.html	なし
something.src = "foo.gif";	foo.gif	なし
top.location.href = "other.html";	other.html	なし
foo.open("test.html");	test.html	なし
frame.replace("something.html");	something.html	なし

Site studio 固有の JavaScript パターン

JavaScript フラグメント	トラバース対象リンク	置換
Var g_httpCgiUrl = "...";		
link(XXX)	?IdcService=SS_GET_PAGE&ssDocName=XXX	/static/doc_XXX
nodelink(YYY)	?IdcService=SS_GET_PAGE&nodeId=YYY	「注意」の1を参照
Nvh_mainnavigation_display(...)	「注意」の2を参照	「注意」の3を参照
New SiteMapTree(...)	「注意」の2を参照	「注意」の3を参照
New ExplorerMenuBar(...)	「注意」の2を参照	「注意」の3を参照
New VerticalMenuBar(...)	「注意」の2を参照	「注意」の3を参照
New NavTabsTop(...)	「注意」の2を参照	「注意」の3を参照
New NavLogoHome(...)	「注意」の2を参照	「注意」の3を参照
var ssAssetsPath = "..."		

注意:

- 階層パスは、サイトおよびノードの「URL Page Name」プロパティと「URL Directory Name」プロパティを使用して構成されます。プロパティが定義されていない場合は、アンダースコア付きノード・ラベルが使用されます。
- これらのイメージの場所が変更された場合、名前が変更された場合、または新しいアセットが追加された場合は、クローラ処理で場所が選択されません。
- ファイルまたはディレクトリへの参照であるこれらの JavaScript コールのパラメータは、パブリッシュされたバージョンで相対参照に変換されます。

重要: ノード参照に URL パラメータを追加して Site Studio のページをカスタマイズしないでください。追加されたパラメータはすべて無視されます (つまり、Site Studio を使用して定義されていないノード・パラメータは、ページのネーミングに使用されません)。たとえば、nodeId=YYY の後ろに追加された URL は無視されます。

ドキュメント

Site Studio Publishing Utility のドキュメントは、オンライン・ヘルプとしてインストール・ディレクトリに含まれています。また、Web サイトでも入手できます。

ドキュメント	形式	入手可能媒体
リリース・ノート	PDF	DVD または配布 ZIP ファイル
インストレーション・ガイド	PDF	DVD または配布 ZIP ファイル
管理ガイド	PDF	DVD または配布 ZIP ファイル

このガイドで使用されている表記規則

管理ガイドでは、次の表記規則が使用されます。

表記規則	定義
太字	特定のタスクを実行するために、デザイナーまたはコントリビュータのインタフェースで選択する項目（ボタンやメニューなど）を示します。例：「OK」をクリックして削除を確認します。
→	メニューの選択を示します。たとえば、「File」→「Open」は、「File」メニューをクリックして「Open」をクリックすることを意味します。
Code	デザイナーで使用され、レイアウト・ページの「Source」ビューで入力できる実際のコードを示します。

スタート・ガイド

Site Studio Publishing Utility を使用すると、コンテンツ・サーバー環境から純粋な Web サーバー環境（Microsoft IIS や Apache などを実行する環境）へ、Web サイトをパブリッシュできます。問合せによって選択されたコンテンツを含む、サイトのすべてのコンテンツは、コピーされて新しいサーバーにパブリッシュされます。

Publishing Utility はシステムのサーバー側で、Subscription Client または FTP サーバーのいずれかが、システムのクライアント側です。Subscription Client は通常、Web サーバーをホストする各マシンにインストールされます（FTP サーバーの使用を選択した場合を除く）。

注意：Subscription Client は、Connection Server と Site Studio Publishing Utility の両方のクライアント側コンポーネントとして使用されます。

インストールおよびセットアップの概要は次のとおりです。

- Publishing Utility をインストールします。
- Subscription Client インスタンスをインストールします（または FTP サーバーを使用します）。
- 新しいパブリッシュ先を作成します（Subscription Client または FTP サーバーと通信できるように Publishing Utility を構成します）。
- Publishing Utility と通信できるように Subscription Client を構成します（または FTP サーバーを使用します）。

注意：Publishing Utility および Subscription Client のインストールと構成の手順は、『Site Studio Publishing Utility インストール・ガイド』（installation-guide.pdf）を参照してください。

この章の内容は次のとおりです。

- [新しいパブリッシュ先の作成](#)
- [Site Studio Web サイトのパブリッシュ](#)
- [パブリッシュのエラー処理](#)

新しいパブリッシュ先の作成

Publishing Utility の管理インターフェースで「Destinations」→「Create New Destination」をクリックし、パブリッシュ先の詳細、パブリッシュ先のタイプ、および Subscription Client または FTP サーバーの情報を定義します。

新しいパブリッシュ先の作成手順：

1. 「Destination Name」を入力します。パブリッシュ先には説明的な名前を使用してください（たとえば、PublicWebServer や ProductionServer7 など）。
2. 「Description」に追加の説明情報を入力できます（オプション）。
3. 「Destination Type」で、次のオプションから 1 つを選択します。
 - **Subscription Client:** コンテンツは Subscription Client インスタンスに配信されます。後述の「Subscription Client Details」を定義する必要があります。
 - **FTP Server:** コンテンツは、指定した FTP サーバーに直接配信されます。後述の「FTP Server Details」を定義する必要があります。
4. パブリッシュ先（Subscription Client または FTP サーバー）の「Destination Login」および「Password」を入力します。ログインおよびパスワードは、Publishing Utility に対して Subscription Client を認証するために Subscription Client で使用されます。
5. パブリッシュ先のタイプが Subscription Client の場合は、「Destination Push URL」を入力します。これは、Site Studio Web サイトがパブリッシュされるホスティング・サーバーの URL です（たとえば、<http://productionserver7:8886> や <http://106.106.106.1:8886> など）。
これが Subscription Client の新規インストールの場合は、Publishing Utility と通信できるように Subscription Client を構成する必要があります（すでに構成してある場合は不要です）。詳細は、『Site Studio Publishing Utility インストレーション・ガイド』（[installation-guide.pdf](#)）を参照してください。
6. パブリッシュ先のタイプが FTP サーバーの場合は、次の情報を入力します。
 - FTP サーバーの URL
 - FTP サーバーのポート番号
 - FTP サーバーのログイン名
 - FTP サーバーのパスワード
 - コメントを格納するサブディレクトリ
7. 「Save」をクリックします。

Site Studio Web サイトのパブリッシュ

Publishing Utility の管理インタフェースで「Add Website」をクリックして、サイトの詳細、更新スケジュールおよび配信情報を定義します。

サイトの詳細の定義手順：

1. ユーザーおよびパスワードを入力して Site Studio Web サイトにアクセスします。

入力したユーザー名およびパスワードにより、Site Studio Web サイトへのアクセスに使用するユーザー・アカウントが定義されます。そのため、アクセス制御エラーを発生させずにサイトをパブリッシュできるかどうか制御されます。

2. 「Server CGI URL」を入力します。

これは、Site Studio Web サイトをホストするコンテンツ・サーバーのインスタンスの URL です（例：http://server7/stellent/idcplg）。

3. 「Connect」をクリックします。

「Site ID」ドロップダウン・リストに値が移入されます。

4. リストから「Site ID」を選択します。

「Site ID」は、コンテンツ・サーバーに含まれている Site Studio Web サイトの一意の識別子です。

5. 「Generate Manifest URL」をクリックします。

「Manifest URL」フィールドに値が移入されます。

6. 「Site Name」に説明的なサイト名を入力します（たとえば、Business Website や ProductionServer7 など）。

Server CGI Url	<input type="text" value="http://server7/stellent/idcplg"/>	<input type="button" value="Connect"/>
Site Id	<input type="text" value="NewSite"/>	<input type="button" value="Generate Manifest URL"/>
Manifest URL *	<input type="text" value="http://server7/stellent/idcplg?IdcService=SS_GI"/>	
Site Name *	<input type="text" value="Business Website"/>	

7. 「Site Description」に追加の説明情報を入力できます（オプション）。

8. 配信オプションを選択します。

- **Incremental:** コンテンツは追加的に配信されます。つまり、コンテンツ項目のパッケージの配信が中断された場合、すでに正常に配信および取得されていたコンテンツ項目は取り消されません。残りの項目の配信は、サブスクリプションの配信ルールに従って、次回の配信試行で再開されます。FTP サーバーへ配信する場合はこのオプションを使用してください。
- **Atomic:** 各配信で送信されるすべての項目が、Publishing Utility によって各ユーザーに正常に配信される必要があります。これに失敗した場合は、いずれの項目も配信されません。（追加的配信は行われません。）Subscription Client へ配信する場合のみ使用できます。
- **Synchronized:** 各配信で送信されるすべての項目が、Publishing Utility によってすべてのユーザーに正常に配信される必要があります。これに失敗した場合は、どのユーザーにもいずれの項目も配信されません。この同期配信オプションは、複数のサーバー（たとえば、ロード・バランシングやフェイルオーバーをサポートする、ミラー化された Web サーバーの配列など）に、コンテンツの同一コピーを同時に、また確実に配布する必要がある場合に役立ちます。Subscription Client へ配信する場合のみ使用できます。

更新スケジュールの定義手順：

1. 更新オプションを選択します。
 - **Every day:** 1年間、毎日コンテンツをチェックする場合は、このオプションを選択します。
 - **Only on:** 特定の曜日のみコンテンツをチェックする場合は、このオプションを選択して曜日を選択します。
 - **Only on these dates:** 毎月同じ日にコンテンツをチェックする場合は、このオプションを選択します。複数の日付をスペースで区切って数字として入力できます。月末を指定する場合は「last」と入力します。(たとえば、**10 20 last** と入力すると、毎月 10 日、20 日および末日にチェックが行われます。)
 - **Manual Update:** サイトのチェックを回避する場合は、このオプションを選択します。このオプションを使用すると、コンテンツは自動的にパブリッシュされません。このオプションは、サイトを手動で（「Status」ページの「Update Now」をクリックして）チェックおよびパブリッシュする場合に便利です。
1. 「**First update at**」の値を入力して、チェックが行われる最初の時間を指定します。

何時何分かを入力して「AM」または「PM」を選択します（例：3:40 PM）。

数字を入力して、リストから「Hours」または「Minutes」を選択します（たとえば、1 日 1 回チェックする場合は、「24」と入力して「Hours」を選択します）。
2. 「**Last update at**」の値を入力して、チェックが行われる最後の時間を指定します。

何時何分かを入力して「AM」または「PM」を選択します（例：3:40 PM）。

配信先の選択手順：

1. 配信先のサブスクライブ・オプションを選択して配信先を選択します。
2. サイトの詳細、更新スケジュールおよび配信情報の定義が完了したら、「Save」をクリックします。

パブリッシュのエラー処理

エラー処理の管理制御は、事前設定済の構成変数によって提供されます。これらの設定により、戻された HTTP レスポンスがハード・エラー表示またはソフト・エラー表示のどちらとして処理されるか、もしくは単純に無視されるかが定義されます。

注意：ハード・エラーおよびソフト・エラーは、単純に、戻された HTTP レスポンスの相対的軽重度を示す説明的用語です。デフォルトでは、特定の HTTP レスポンスがハード・エラーとして評価され、その他の HTTP レスポンスはソフト・エラーとして評価されます。ただし、これらのデフォルトはカスタマイズ可能です。

エラー処理について

エラーがない場合、Site Studio Web サイトのコンテンツはパブリッシュ先にパブリッシュされます。HTTP レスポンスが検出された場合は、エラー・コードが戻されます。これらのエラーの処理方法は、Publishing Utility の構成設定によって定義されます。

通常、デフォルト設定でほとんどのパブリッシュ・ニーズに対応できます。その一方で、構成値を編集して設定を変更することもできます。変更することで、エラー処理のカスタマイズおよび制御を付加的レベルで行えます。

- ネットワーク IO エラー（接続不能などのネットワークの物理的な問題）は、常にハード・エラーとして処理されます。
- ハード・エラーおよびソフト・エラーの許可されるしきい値は、ハード・エラーしきい値およびソフト・エラーしきい値の各エントリの値を変更してカスタマイズできます。
- 範囲 500 の HTTP レスポンスは、デフォルトでハード・エラーとして評価されます。これは、ソフト・エラーまたは無視するエラーのリストに明示的に含めることで、カスタマイズできます。

- 範囲 400 の HTTP レスポンスは、デフォルトでソフト・エラーとして評価されます。これは、ハード・エラーまたは無視するエラーのリストに明示的に含めることで、カスタマイズできます。
- 範囲 300 ～ 100 の HTTP レスポンスは、デフォルトで無視されます。これは、ソフト・エラーまたはハード・エラーのリストに明示的に含めることで、カスタマイズできます。

注意：コンテンツ・サーバーから常に特定の情報にアクセスできるとは限らないため、ソフト・エラー表示はインタフェースに不可欠な部分です。

技術ヒント：クロールでエラーが発生した場合には、すぐにしきい値を増やすのではなく、エラーの発生原因を突き止めて解決を試みることをお勧めします。ほとんどの場合のエラーは、イメージの欠落やリンクの切断などの単純なものです。これらは簡単に修正でき、作業も単純です。

エラー処理の構成設定

構成設定	説明	デフォルト
hard-error-threshold	許可されるハード・エラーの数を定義する。定義された数を超えた場合、パブリッシュは失敗する。	1
soft-error-threshold	許可されるソフト・エラーの数を定義する。定義された数を超えた場合、パブリッシュは失敗する。	5
hard-errors	ハード・エラーとして処理される個々のエラー・コードを指定できる。 このリストではワイルドカードを使用できない。各エラー・コードは（カンマで区切って）明示的に記載する必要がある。	デフォルトで、範囲 500 のエラー・コードがハード・エラーとして評価される。
soft-errors	ソフト・エラーとして処理される個々のエラー・コードを指定できる。 このリストではワイルドカードを使用できない。各エラー・コードは（カンマで区切って）明示的に記載する必要がある。	デフォルトで、範囲 400 のエラー・コードがソフト・エラーとして評価される。
ignore-errors	無視される個々のエラー・コードを指定できる（ハード・エラーまたはソフト・エラーとして評価されない）。 このリストではワイルドカードを使用できない。各エラー・コードは（カンマで区切って）明示的に記載する必要がある。 注意： このリストにエラー・コードを追加する場合は、慎重に行う必要がある。	デフォルトで、範囲 100 ～ 300 のエラー・コードが無視される。

エラー処理のカスタマイズ

パブリッシュ・エラー制御は、(Publishing Utility のインストール・ディレクトリにある) `sitestudio.config` ファイルの `options` タグ内の要素によって構成されます。これらのオプションは、サーバー上のすべてのオフターに影響します。

注意: Publishing Utility をクリーン・インストールした後は、この構成ファイルは存在しませんが、最初の Site Studio オフターを作成すると生成されます。この構成ファイルを変更する場合は、サーバーを停止する必要があります。

構成設定を編集して、戻された HTTP エラーがハード・エラー表示またはソフト・エラー表示のどちらとして評価されるかを制御したり、許可されるハード・エラーまたはソフト・エラーの数を定義できます。

次に例を示します。

- ハード・エラーのしきい値を 5 と定義すると、ハード・エラーが 5 より多い場合はサイトのパブリッシュが回避されます。
- ソフト・エラーのしきい値を 9 と定義すると、ソフト・エラーが 9 より多い場合はサイトのパブリッシュが回避されます。
- ハード・エラーのエントリに 404 と 405 を追加すると、これらのエラー・コードは、範囲 500 のコードとともにハード・エラーとして評価されます (範囲 500 のコードは、デフォルトでハード・エラーとして評価されます)。
- ソフト・エラーのエントリに 501 と 503 を追加すると、これらのエラー・コードは、範囲 400 のコードとともにソフト・エラーとして評価されます (範囲 400 のコードは、デフォルトでソフト・エラーとして評価されます)。
- 無視されるエラーのエントリに 509 と 405 を追加すると、このエラー・コードは無視されず (ハード・エラーまたはソフト・エラーとして評価されません)。

変更された `sitestudio.config` ファイルの例:

```
<options>
  <error-control
    hard-error-threshold="5"
    soft-error-threshold="9"
    hard-errors="403, 404"
    soft-errors="501, 503"
    ignore-errors="509" />
</options>
```

標準 HTTP エラー・コード

この項では、Hypertext Transfer Protocol (HTTP) の一部である標準エラー・コードのリストを示します。標準 HTTP エラー・コードの詳細は、次に示す World Wide Web Consortium (W3C) の Web サイトを参照してください。

<http://www.w3.org/Protocols/>

HTTP プロトコル・ステータス・コード

100 Continue	403 Forbidden
101 Switching Protocols	404 Not Found
200 OK	405 Method Not Allowed
201 Created	406 Not Acceptable
202 Accepted	407 Proxy Authentication Required
203 Non-Authoritative Information	408 Request Time-Out
204 No Content	409 Conflict
205 Reset Content	410 Gone
206 Partial Content	411 Length Required
300 Multiple Choices	412 Precondition Failed
301 Moved Permanently	413 Request Entity Too Large
302 Moved Temporarily	414 Request-URL Too Large
303 See Other	415 Unsupported Media Type
304 Not Modified	500 Server Error
305 Use Proxy	501 Not Implemented
400 Bad Request	502 Bad Gateway
401 Unauthorized	503 Out of Resources
402 Payment Required	505 HTTP Version not supported

Publishing Utility の管理

この章では、Publishing Utility の管理インタフェースの使用に関する情報を提供します。ヘルプ・システムは、Internet Explorer や Netscape Navigator などの Web ブラウザで表示できます。また、従来の Web ブラウザ・コントロール（「戻る」、「進む」、「更新」など）を使用して、ヘルプ・トピックをナビゲートおよび表示できます。

オンライン・ヘルプを表示するには、「Help」 アイコンをクリックします。それぞれのダイアログ・ボックスに表示される「Help」ボタンをクリックすると、そのダイアログ・ボックスの機能に関する説明情報を提供するトピックが直接表示されます。

それぞれのヘルプ・トピックからナビゲーション・バーの「Show Navigation」 ボタンをクリックすると、管理ガイドをすべてオンラインで表示できます。

この章の内容は次のとおりです。

- [Current status](#)
- [Add website](#)
- [All destinations](#)
- [Create new destinations](#)
- [Event logs](#)
- [Create event log](#)
- [ロギング機能](#)
- [View log messages](#)
- [General settings](#)

Current status

このページでは、すべての Web サイトの現在のステータスを確認できるほか、パブリッシュの詳細が提供されます。

Site Name: サイト名。クリックすると、この Web サイトの詳細が表示されます。

Job Schedule: 設定されているジョブ・スケジュール（例：「Manual Update」）。

Last Update: 最後の更新の日時。

Job State: ジョブの状態（例：「Completed」）およびエラーと警告の数が表示されます。クリックすると、ログ・メッセージの確認または重大度フィルタの変更を行えます。

Changes: 最後のパブリッシュ・イベントからの変更が表示されます。

Delivery Status: 更新されたパブリッシュ先の数が表示されます。

Update History: 「View all updates」をクリックすると、詳細なリストが表示されます。

Actions: 「Update Now」アイコンをクリックすると、Web サイトが更新されます。

Add website

このページでは、Site Studio Web サイトを追加できます。

Site Details

User Name: Site Studio Web サイトにアクセスするためのユーザー名。

Password: Site Studio Web サイトにアクセスするためのパスワード。

入力したユーザー名およびパスワードにより、Site Studio Web サイトへのアクセスに使用するユーザー・アカウントが定義されます。そのため、アクセス制御エラーを発生させずにサイトをパブリッシュできるかどうか制御されます。

Server CGI URL: Site Studio Web サイトをホストするコンテンツ・サーバー・インスタンスの URL（例：http://server7/stellent/idcplg）。「Server CGI URL」を入力して「Connect」をクリックします。「Site ID」ドロップダウン・リストに値が移入されます。

Site ID: コンテンツ・サーバーに含まれている Site Studio Web サイトの一意の識別子。ドロップダウン・リストからサイト ID を選択して、「Generate Manifest URL」をクリックします。「Manifest URL」フィールドに値が移入されます。

Site Name: 説明的なサイト名を入力します（たとえば、Business Website や ProductionServer7 など）。

Site Description: 追加の説明情報を入力します。

Delivery Options: すべてのコンテンツが配信されたことを Publishing Utility がチェックする必要があるかどうかを指定します（必須）。

配信オプションを選択します。

- **Incremental:** コンテンツは追加的に配信されます。つまり、コンテンツ項目のパッケージの配信が中断された場合、すでに正常に配信および取得されていたコンテンツ項目は取り消されません。残りの項目の配信は、サブスクリプションの配信ルールに従って、次の配信試行で再開されます。FTP サーバーへ配信する場合はこのオプションを使用してください。
- **Atomic:** 各配信で送信されるすべての項目が、Publishing Utility によって各ユーザーに正常に配信される必要があります。これに失敗した場合は、いずれの項目も配信されません。（追加的配信は行われません。）Subscription Client へ配信する場合のみ使用できます。

- **Synchronized:** 各配信で送信されるすべての項目が、Publishing Utility によってすべてのユーザーに正常に配信される必要があります。これに失敗した場合は、どのユーザーにもいずれの項目も配信されません。この同期配信オプションは、複数のサーバー（たとえば、ロード・バランシングやフェイルオーバーをサポートする、ミラー化された Web サーバーの配列など）に、コンテンツの同一コピーを同時に、また確実に配布する必要がある場合に役立ちます。Subscription Client へ配信する場合のみ使用できます。

Preferred Page Extension: デフォルトのページ拡張子は HTML です。HCSP や JSP などの異なるページ拡張子を使用する場合は、これを変更してください。

Update Schedule

更新スケジュール（開始時間、終了時間および配信間隔）を指定する際には、1 日のうちでコンテンツが配信される時間を制限できます。たとえば、60 分ごとの配信を 8:00 AM に開始して 5:00 PM に終了するように指定すると、コンテンツは毎時配信されますが、8:00 AM より前と 5:00 PM より後には配信されません。

Every day: 1 年間、毎日コンテンツをチェックする場合は、このオプションを選択します。

Only on: 特定の曜日のみコンテンツをチェックする場合は、このオプションを選択して曜日を選択します。

Only on these dates: 毎月同じ日にコンテンツをチェックする場合は、このオプションを選択します。複数の日付をスペースで区切って数字として入力できます。月末を指定する場合は「last」と入力します。（たとえば、10 20 last と入力すると、毎月 10 日、20 日および末日にチェックが行われます。）

Manual Update: サイトのチェックを回避する場合は、このオプションを選択します。結果的に、コンテンツは自動的にパブリッシュされません。このオプションは、サイトを手動で（「Status」ページの「Update Now」をクリックして）チェックおよびパブリッシュする場合に便利です。

First Update at: チェックが行われる最初の時間を指定します。何時何分かを入力して「AM」または「PM」を選択します（例：3:40 PM）。

Update Every: チェック間隔を指定します。2 桁の数字を入力して、リストから「Hours」または「Minutes」を選択します（1 日 1 回チェックする場合は、「24」と入力して「Hours」を選択します）。

Last Update at: チェックが行われる最後の時間を指定します。何時何分かを入力して「AM」または「PM」を選択します（例：3:40 PM）。

Deliver To

配信先のサブスクリプション・オプションを選択して配信先を選択できます。また、サブスクリプション解除オプションを選択してサブスクリプションを解除できます。サイトの詳細、更新スケジュールおよび配信情報の定義が完了したら、「Save」をクリックします。

All destinations

このページでは、次のタスクを実行できます。

- 配信先リストを表示します。
- 「**Create New Destination**」をクリックして、新しい配信先を作成します。
- 配信先の名前をクリックして、配信先の詳細ページを表示します。

Create new destinations

このページでは、現在のパブリッシュ先情報の更新や削除、または新しいパブリッシュ先の追加を行えます。

Destination Details

Destination Name: パブリッシュ先の説明的な名前を入力します（必須）。

Description: パブリッシュ先の説明情報を追加できます。

Destination Type: （必須）

- **Subscription Client:** コンテンツは Subscription Client インスタンスに配信されます。後述の「Subscription Client Details」を指定する必要があります。
- **FTP Server:** コンテンツは、指定した FTP サーバーに直接配信されます。後述の「FTP Server Details」を指定する必要があります。

Subscription Client Details

このセクションは、Subscription Client インスタンスを使用する場合に使用します。

Destination Push Url: Site Studio Web サイトがパブリッシュされるホスティング・サーバーの URL（たとえば、<http://productionserver7:8886> や <http://106.106.106.1:8886> など）。

Password: パブリッシュ先（Subscription Client）のパスワード。パスワードは、Publishing Utility に対して Subscription Client を認証するために Subscription Client で使用されます。

FTP Server Details

このセクションは、FTP サーバーを使用する場合に使用します。

FTP Server Location: FTP サーバーの URL（必須）。

Server Port Number: FTP サーバーのポート番号。

FTP User Name: FTP サーバーのログイン名（必須）。

FTP Password: FTP サーバーのパスワード。

FTP Subdirectory: コンテンツを格納するサブディレクトリ。

Event logs

このページでは、次のタスクを実行できます。

- イベント・ログのリストを表示します。
- 「Create Event Log」をクリックして、イベント・ログの作成を開始します。
- イベント・ログの名前をクリックして、イベント・ログの詳細ページを表示します。

Primary Log

Publishing Utility の稼働中に、`syndicator.log` というログ・ファイルが自動的に生成されます。これは、Publishing Utility のインストール・ディレクトリに書き込まれる ASCII テキスト・ファイルです。Publishing Utility の管理インタフェースでは、このログ・ファイルを「Primary log」と呼びます。

デフォルトでは、ログ・ファイルの管理はローテーション方式で行われます。現在のログ・ファイルが構成された最大サイズに達すると、追加のログ・ファイルが作成されます。構成された数のログ・ファイルが生成されるまで、Publishing Utility は、一定サイズのログ・ファイルを継続して生成します。指定されたファイル数に到達すると、Publishing Utility は、新しいログ・ファイルを作成するときに最も古いログ・ファイルを削除します。このローテーション方式では、ログ・メッセージの格納に使用されるディスク領域を正確に制御でき、常に最新のロギング情報が保持されます。

`syndicator.log` のデフォルト・ファイル・サイズは、1024 KB です。ローテーションするファイル数のデフォルトは7です。この数は最大 100 に設定できます。

Database Log

このイベント・ログは「Current Status」表示に必要です。デフォルト・ロギング・レベルは「Info」で、情報メッセージが提供されます。ロギング・レベルは、ニーズにあわせて変更できます。詳細は、3-6 ページの「[Create event log](#)」を参照してください。

イベント・ログの削除

明示的にイベント・ログを削除するには、次のようにします。

1. 「Event Logs」 ページで、削除するログのリンクをクリックします。
2. 表示される「Event Log」 ページで、「Delete」 をクリックします。

注意：「Primary log」は削除できません。

Publishing Utility のコンポーネントで生成されたイベント・メッセージおよび転送メッセージは保存されるため、問題が発生した場合に確認できます。このセクションでは、これらのロギング機能の概要が提供されます。

Create event log

このページでは、追加のイベント・ログを作成できます。

Log Details

ログの名前を入力してロギング・レベルを選択します。

Log name: このログの名前を選択します。(名前は自由に選択できますが、通常はログの目的を反映した名前にする必要があります。)

Description: ログの目的の説明を入力します。

Log Method: 「File」または「Custom」ログ方式を選択します。

- **File:** ASCII テキスト・ファイル。ユーザーが指定したファイル名およびローテーションを使用します。後述の「File Logging」の詳細を指定する必要があります。
- **Custom:** カスタム・ログ。指定された Java クラス API を使用します。後述の「Custom Logging」の詳細を指定する必要があります。

Logging Levels

Default Logging Level: ロギング機能のデフォルトのエラー・レベルを設定します。

Publishing Utility の様々なコンポーネント機能からログに記録されるイベントのレベルを設定します。重大度レベルは次のとおりです。

- **Critical:** 重大なエラーまたはクラッシュの情報を表示します。
- **Error:** 操作が失敗した場合に情報を表示します。
- **Warning:** 異常な状態を表示します。
- **Info:** 情報メッセージを表示します。
- **Verbose:** 複数行のステータス・メッセージを表示します。
- **Debug:** プログラム用のデバッグ情報を表示します。このロギング・レベルでは、大量のメッセージが戻されるため、システムのパフォーマンスに影響する可能性があります。そのため、特定の問題のトラブルシューティングのみに使用してください。

特定のロギング機能のデフォルト・エラー・ロギング・レベルをオーバーライドするには、機能エラーのドロップダウン・リストを使用します。詳細は、3-7 ページの「[ロギング機能](#)」を参照してください。

Log Destinations

各ログの出力先には、次のいずれかを指定できます。

File Logging: ASCII テキスト・ファイル。ユーザーが指定したファイル名およびローテーションを使用します。

Database Logging: Publishing Utility データベース。ユーザーが指定したページ・サイクルを使用します。

Mail Logging: 電子メール通知。指定された管理者のアドレスに送信されます。

Custom Logging: カスタム・ログ。指定された Java クラス API を使用します。

File Logging

このログによってテキスト・ファイルにメッセージが送信されるようにするには、「File Logging」オプションを選択します。ページのこのセクションでは、次の設定を定義できます。

File name: ログのファイル名を入力します。

File handling: 次のいずれかのオプションを選択します。

- **Overwrite log file:** Publishing Utility の起動ごとにログ・ファイルのリフレッシュを開始します。
- **Append to existing log file:** 既存のログ・ファイルに新しいエントリを追加します。
- **Rotate log files by size:** 現在のファイルが指定されたしきい値のサイズに達した場合に、追加のログ・ファイルが自動的に生成されます。指定されたしきい値に到達すると、Publishing Utility は、新しいログ・ファイルを作成するときに最も古いログ・ファイルを削除します。

Rotate files every...KB: ファイルのローテーションが発生するログ・ファイルのしきい値サイズ (KB 単位) を設定します。設定できる最大サイズは 1024 KB です。

Keep...old files: ファイルのローテーションで維持するファイルの最大数を設定します。設定できる最大数は 100 です。

ログ・ファイルは、きわめて大きくなる可能性があります。より小さいログ・ファイルを生成するには、より低い頻度でメッセージが生成されるロギング・レベル（「Critical」や「Error」など）を使用してください。また、「File handling」の「Rotate log files by size」オプションを使用すると、ロギングに使用されるディスク領域が一定に保たれます。

Custom Logging

このログ出力先は、ログ・メッセージを処理のために Java ルーチンに送ります。カスタム・ロギング・プロセッサとともに使用します。

ロギング機能

イベントのロギングを指定できる機能は次のとおりです。

csm.sitestudio: Site Studio サイトを監視するためのコンテンツ・ソース・モニター。

csm.web: Web サイトまたは FTP サイトを監視するためのコンテンツ・ソース・モニター。Site Studio サイトをパブリッシュする際には、多数のメッセージが **csm.web** として表示されます (csm.sitestudio も参照)。

database: サーバーとデータベースとの基本的な相互作用は、すべてここに記録されます。

dataobject: データベースのオブジェクトの格納および取得に関するメッセージ。

date-time: 日付または時間の変換に関するメッセージは、すべてここに記録されます。

delivery: 配信方法とは関係のない、コンテンツ配信全般に関するメッセージ。

delivery.ftp: FTP 経由でのコンテンツ配信固有のメッセージ。

delivery.ice: ICE 経由でのコンテンツ配信固有のメッセージ (プルとプッシュの両方の ICE サブスクリプションがここに記録されます)。

event: リソース (オファー、サブスクリバおよびサブスクリプションなど) の作成、変更、削除、およびこれらのイベントのネットワーク上での配信に関する通知。

httpd: Publishing Utility の組込み Web サーバーで生成された接続およびネットワークに関するメッセージ。

httpd.content: Publishing Utility の組込みコンテンツ・サーバーで生成された (コンテンツ・ソース・モニターからのファイルの処理に関する) メッセージ。

httpd.tomcat: Publishing Utility の管理サーバーで生成されたメッセージ。

ice: Publishing Utility と Subscription Client の間で交換された実際の ICE メッセージ、およびそれらのメッセージの処理。

ice-cache: Publishing Utility の ICE キャッシュからの挿入および削除に関するメッセージ (Subscription Client に送信される項目をキューするためのサブシステム。これによって、可能なときにいつでも配信が最適化されます)。

packagemanager: ソース・モニターからのコンテンツ更新の記録に関するメッセージ。

replicator: Web サイトのクローリングに `csm.web` で使用されるコンポーネント。Subscription Client でも使用されます。トリガーおよびコンテンツ・シンクは、この機能に記録されます。(コンテンツ・シンクは、異なるリポジトリにコンテンツを格納するためのモジュールで、コンテンツ・ソース・モニターの論理上の反意語です。)

scheduler: 時間が設定されている更新、クローリング、配信、およびその他の定期的なタスクを担当するスケジューラからのメッセージ。

security: セキュリティおよび認可のサブシステムからの全般的なメッセージ。

soap.service: SOAP (Simple Object Access Protocol) トランザクション・アクティビティを記述します。

syndicator: Publishing Utility 自体の全般的な操作によって生成されたメッセージ (情報メッセージが最も多く含まれます)。

template: Publishing Utility による、イベント・テンプレートで定義された電子メール・メッセージの送信によって生成されたメッセージ。

ui.validation: JavaBean との相互作用に関するメッセージ。

ui.web: Web インタフェースのログ・メッセージ。

xml: 独自の XML/HTML パーサー。様々な場所で使用されますが、主に ICE パッケージの処理に使用されます。

View log messages

このページでは、ログ・メッセージを確認できます。次のオプションより重大度の高いログ・メッセージのみが表示されます。

- **Critical:** 重大なエラーまたはクラッシュの情報を表示します。
- **Error:** 操作が失敗した場合に情報を表示します。
- **Warning:** 異常な状態を表示します。
- **Info:** 情報メッセージを表示します。
- **Verbose:** 複数行のステータス・メッセージを表示します。
- **Debug:** プログラマ用のデバッグ情報を表示します。このロギング・レベルでは、大量のメッセージが戻されるため、システムのパフォーマンスに影響する可能性があります。そのため、特定の問題のトラブルシューティングのみに使用してください。

General settings

このページでは、Publishing Utility の全般的な設定を表示および編集できます。

Identity

これらの設定により、Publishing Utility が識別され、操作プロパティが指定されます。

Server Name: この Publishing Utility の名前。通常は社名です（必須）。

Server UUID: Universal Unique Identifier (UUID) によって Publishing Utility が識別されます。このエントリは事前に移入されます。このエントリが空の場合は、ライセンス契約の一部として提供されているライセンス・キー番号を入力します（必須）。

Server Description: サイトに関する情報。通常は事業内容やその他の情報です。この情報は Subscription Client の構成ファイルに書き込まれます。

Server URL: 経由してユーザーが Publishing Utility にログインできる URL。Publishing Utility が最初に起動したときの構成に基づいて生成された URL が事前に移入されます。ただし、この生成済 URL は、管理者に提供される 1 つの例にすぎません。管理者は、この URL を検証し、必要に応じて変更する必要があります。

Server URL for Subscription Client [ICE]: コンテンツをダウンロードするために、ユーザーが経由してこの Publishing Utility にログインできる Information and Content Exchange (ICE) の URL。Publishing Utility が最初に起動したときの構成に基づいて、生成された URL が事前に移入されます。ただし、この生成済 URL は、管理者に提供される 1 つの例にすぎません。管理者は、この URL を検証し、必要に応じて変更する必要があります。

Administration

管理者パスワードを変更するには、新しいパスワードを入力して「Save」をクリックします。

Database Purge

これらの設定により、非アクティブなコンテンツがデータベースからパージされる時間と頻度が指定されます。データベースのパージ処理には 2 つのフェーズがあります。第 1 フェーズでは、非アクティブなコンテンツ項目がマークされます。非アクティブなコンテンツ項目とは、指定された時間にわたってアクティビティが確認されない項目です。第 2 フェーズでは、データベース情報が削除されます。これは、指定された日時に実行されます。

実際のコンテンツ・ファイルは削除されません。削除されるのは、これらのファイルに関する格納済の情報のみです。パージ後、コンテンツ内に一貫して表示させる（会社のロゴのグラフィックなどの）変更されていない要素を、データベースに再び追加する必要があります。

パージ時間の設定により、パージ実行用のウィンドウおよび失効オファー選択の時間間隔が指定されます。デフォルトでは、パージは 5 分ごとに 24 時間（12:00 A.M から 11:59 P.M まで）実行されます。時間は、AM または PM を指定して 12 時間制で入力してください。

Purge content items older than: この時間数によって、コンテンツ項目が非アクティブ状態になってから削除対象としてマークされるまでの時間が指定されます。

このフィールドが空の場合、パージは一切実行されません。値を入力した場合は、下で指定した日時にパージが実行され、このフィールドで指定した時間を経過した項目が削除されます。

Purge logs and package update history entries older than: この時間数によって、ログおよびパッケージ更新履歴が非アクティブ状態になってから削除対象としてマークされるまでの時間が指定されます。

このフィールドが空の場合、パージは一切実行されません。値を入力した場合は、下で指定した日時にパージが実行され、このフィールドで指定した時間を経過した項目が削除されます。

Purge Frequency: これらの設定により、ページ頻度が指定されます。毎日、特定の曜日または日付に実行されるように設定できます。

- **Every day:** 一年間、毎日ページ処理が実行されます。
- **Only on:** 選択された曜日に、対象となるコンテンツがページされます。
- **Only on these dates:** このフィールドに入力した日付に、対象となるコンテンツがページされます。数字をスペースで区切って複数の日付を入力します。月末を指定する場合は「last」と入力します。(たとえば、**10 20 last** と入力すると、毎月 10 日、20 日および末日にチェックが行われます。)
- **Manual Update:** データベースのページは自動的に行われません。このオプションは、データベースを手動でページする場合に便利です。

First purge at: 1 日のうちでページ処理が実行される最初の時間を設定します。

Purge every: ページ間隔を分または時間単位で設定します。フィールドに 2 桁の数字を入力して「Hours」または「Minutes」を選択します。1 日 1 回ページするには、「24」を入力して「Hours」を選択します。デフォルトでは、30 分ごとにページが実行されます。

Last purge at: 1 日のうちでページ処理が実行される最後の時間を設定します。

Time Format

「Time Format」セクションでは、Publishing Utility で使用されるすべての時間設定の表示形式を指定できます。24 時間形式または 12 時間形式の時間も含め、すべての時間を選択した形式で入力する必要があります。「Time Format」セクションでは、次のオプションを使用できます。

- 「24-hour clock」オプションは、「Local」または「GMT」の設定と併用され、時間が 24 時間形式で表示されます。
- 「Local time」オプションでは、ローカル・システム時間で時間が表示されます。これは、デフォルト設定です。
- 「GMT」（グリニッジ標準時）オプションでは、グリニッジ標準時で時間が表示されます。

「GMT +/-」オプションを使用すると、テキスト・ボックスに入力した時間および分の数値によって、GMT からのオフセット時間を表示できます。

注意: Publishing Utility への時間の入力は、時間の表示用に選択したものと同一形式で行う必要があります。

構成 (XML) 要素

Publishing Utility では、コンテンツのフィルタ処理のために XML ベースの言語が提供されます。この章では、Publishing Utility で使用されるレプリケーション構成 XML スキーマに関するリファレンス・ガイドを提供します。各 XML 要素の説明に続いて、XML スキーマが記述された DTD を示します。これは、ソフトウェア拡張機能のプログラミングや構成を担当するユーザーの支援を目的としています。

この章の内容は次のとおりです。

- [ベース要素](#)
- [フィルタ](#)
- [トリガー](#)
- [シンク](#)
- [job 要素および filter 要素の DTD](#)

ベース要素

この項では、変換、フィルタ処理、トリガーおよびシンクの実装に使用される構成要素について説明します。

defaults 要素

defaults 要素は、job 要素内で明示的に設定されていない場合にジョブに適用する要素を指定します。defaults の子要素は、ice-delivery-rule (1 つ)、filterset (0 ~ 複数)、trigger (0 ~ 複数) および sink (0 ~ 複数) です。

job 要素

job 要素は、ジョブの配信ルールで指定された時間にジョブが実行されるようにします。job 要素には、コンテンツの場所である定義済 URL が必要です。次の属性を使用して、ジョブの実行に必要な情報を指定できます。

属性	用途	値およびデフォルト
lurl	(必須) Publishing Utility ICE サーバーの URL。	[文字列]
username	パスワード保護されているサイトのユーザー ID。	オプション
password	パスワード保護されているサイトの BASE64 でエンコードされたパスワード。	オプション
baseref	サイトがホストされている仮想パスを指定する。たとえば、Web サイト <code>http://www.stellent.com</code> をレプリケートし、ローカル Web サーバーで <code>http://target.domain/cool/Stellent/index.html</code> として再び処理させるには、 baseref を <code>/cool/Stellent</code> として定義し、 <code>C:¥MySrv¥Web¥docroot¥cool¥Stellent</code> を localdir (下を参照) として定義する。	オプション
user-agent	サイトのクロール時に Publishing Utility が模倣する、Web ブラウザ (ユーザー・エージェント) の ID。	[文字列] デフォルト : Mozilla/4.0 (互換性のある製品、MSIE 6.0、Windows NT 5.0)
max-depth	サイトからコンテンツを取得する際にリンクをたどってアクセスするレベル (深さ) の最大数。たとえば、 max-depth が 1 に設定されており、ターゲット URL が <code>http://www.stellent.com</code> の場合は、ページ <code>http://www.stellent.com index.htm</code> に表示されているリンクをたどって 1 つ下のレベルにアクセスし、すべてのターゲット・ファイルがダウンロードされ、処理が終了する。 max-depth が 2 に設定されている場合は、2 次リンクをたどって上から 3 番目のレベルにアクセスし、すべてのターゲット・ファイルがダウンロードされて処理が終了する。 値 -1 は、制限なしと解釈される。	[整数] デフォルト : -1
max-pages	ダウンロードされる最大ページ数。値 -1 は、制限なしと解釈される。	[整数] デフォルト : -1

属性	用途	値およびデフォルト
absolute-to-relative	true の場合、完全修飾された絶対 URL が、コンテンツの最上位に対する相対 URL に変換される。これにより、ダウンロード後のコンテンツを参照する際にエラーが発生しない。 false の場合、URL はそのままになる。	デフォルト : true
pnmtohttp	リモート Web サイトの RealAudio サーバーのルート・ディレクトリを指定する HTTP URL。PNM (Real Audio) URL は、レプリケーション・エンジンによって、この設定を使用して HTTP URL に変換される。変換することで、レプリケーション・エンジンは、指定された PNM URL から RealAudio ファイルを取得し、適切なローカル・ファイル・パスを計算できるようになる。	[文字列]
pnmtopnm	ローカル RealAudio サーバーを指定する PNM (RealAudio) URL。レプリケーション・エンジンは、この設定を使用してダウンロード済 RealAudio ファイルを変換する。これにより、これらのファイルをローカル RealAudio サーバーから処理できるようになる。	例 : pnm:\\IP_address IP_address は、RealAudio サーバーの IP アドレス
mmstohttp	リモート Web サイトの Microsoft NetShow サーバーのルート・ディレクトリを指定する HTTP URL。MMS (NetShow) URL は、レプリケーション・エンジンによって、この設定を使用して HTTP URL に変換される。変換することで、レプリケーション・エンジンは、MMS URL から RealAudio ファイルを取得し、適切なローカル・ファイル・パスを計算できるようになる。	[文字列]
mmstomms	ローカル Microsoft NetShow サーバーを指定する MMS (NetShow) URL。レプリケーション・エンジンは、この設定を使用してダウンロード済 NetShow ファイルを変換する。これにより、これらのファイルをローカル NetShow サーバーから処理できるようになる。	例 : pnm:\\IP_address IP_address は、NetShow サーバーの IP アドレス
subscription-id	サブスクリプションの ID。Publishing Utility で定義される。	[文字列]
subscription-state	ジョブの状態は実行中に変化する。この要素は、オファー内の最新のジョブの状態を示す。	[文字列]
offer-name	オファーの名前。	[文字列]
atomic-use	true: レプリケーション・エンジンに対して、指定された配信のすべてのコンテンツをダウンロードすることを強制する。ダウンロード中にエラーが発生した場合は、ダウンロード・ディレクトリが前の状態に戻る。 false: 一部のコンテンツのダウンロード中にエラーが発生しても、ダウンロード可能なすべてのコンテンツがダウンロードされる。 enable-rollback 属性が定義されている場合は、 enable-rollback によってオーバーライドされる。	デフォルト : false

属性	用途	値およびデフォルト
editable	<p>true: サブスクライバがコンテンツを編集または変更して使用できることを示す。</p> <p>false (または未指定) : サブスクライバは、コンテンツを変更せずに使用することを求められる。</p>	デフォルト : false
enable-rollback	<p>true: レプリケーション・エンジンに対して、1回のトランザクションですべてのコンテンツをダウンロードすることを強制する (atomic-use 属性と同様)。</p> <p>false: 通常どおりに (追加的ダウンロードとして) コンテンツがダウンロードされる。</p> <p>この値は、atomic-use 属性の値をオーバーライドする。enable-rollback が定義されている場合は、その値が優先される。</p>	デフォルト : false
ip-status	<p>次のいずれか。</p> <p>PUBLIC-DOMAIN: コンテンツのライセンス制限はない。</p> <p>FREE-WITH-ACK: 唯一のライセンス制限として、コンテンツ・ソースの承認を表示する必要がある。</p> <p>SEE-LICENSE: コンテンツには、既存のライセンス契約ですでに合意済のライセンス制限がある。</p> <p>SEVERE-RESTRICTIONS: このフラグは常用するものではない。このフラグは、サブスクライバ・サイトの管理者への警告である。</p> <p>CONFIDENTIAL: コンテンツは機密であり、特別に保護する必要がある。</p>	[文字列]
rights-holder	<p>配布権の元のソース。</p>	[文字列]
showcredit	<p>true: サブスクライバは、明らかにデータのソースを認識する必要がある。</p> <p>false: サブスクライバは、データのソースを認識する必要がない。</p>	デフォルト : false
usage-required	<p>true: サブスクライバは、配布されたコンテンツの最終的なビューアに関する使用データを戻す必要がある。</p> <p>false: サブスクライバは、配布されたコンテンツの最終的なビューアに関する使用データを戻す必要がない。</p>	デフォルト : false

job 要素の子要素は、localdir (1 つ)、ice-delivery-rule (1 つ)、trigger (0 ~ 複数)、filterset (0 ~ 複数) および sink (0 ~ 複数) です。必須は localdir のみです。

localdir 子要素

localdir 要素は、コンテンツのダウンロード先となるローカル・システムのディレクトリの指定に使用されます。通常、このディレクトリは、サイトを再び処理するローカル Web サーバーのルート・ドキュメント・ディレクトリです。localdir 要素には子要素はなく、属性は1つのみです。

属性	用途	値およびデフォルト
dir	(必須) ローカル・ディレクトリのパス	[パス名]

ice-delivery-rule 子要素

この要素は、このジョブの実行スケジュールを指定します。ice-delivery-rule の属性が設定されていない場合、ジョブは、プル配信モードで5分ごとのデフォルト設定で（構成ファイルに記載されている順序で）ただちに実行されます。設定されている場合は、ice-delivery-rule で指定されたスケジュールに従って実行されます。

ice-delivery-rule は、ジョブが実行される年月日と曜日、ジョブの開始時間と終了時間、およびジョブの実行頻度を定義します。ジョブに ice-delivery-rule 子要素が設定されていない場合は、defaults 要素で指定された ice-delivery-rule が使用されます。

siclone.config に含まれる、PROVIDER という subscription-id が指定されていないサブスクリプションの ice-delivery-rule は、Publishing Utility によって決定されます。変更が行われている場合は、次のステータス・チェックで上書きされます。

ice-delivery-rule 属性に関する次の説明は、<http://www.w3.org/TR/NOTE-ice> で参照できる「Information and Content Exchange (ICE) Protocol's W3C Submission」の 4.2.2 項に基づいています。

これらの属性は、すべて概念的に（OR ではなく）AND で結合されます。つまり、有効な配信時間は、単一の ice-delivery-rule 内で、ルール内の属性に記載されているすべての条件を満たします。

属性	用途	値およびデフォルト
mode	サブスクリプションの配信モードを指定する。 pull: レプリケーション・エンジンにより、新規または更新されたコンテンツに関して Publishing Utility がポーリングされ、そのコンテンツが取得される。 push: Publishing Utility により、コンテンツがいつ変更されたかが調査され、適切なタイミングでレプリケーション・エンジンにパッケージが送信される。	デフォルト: pull
duration	配信は、starttime からこの時間が経過した後 に可能になる。	starttime が指定されていない場合は、指定しても無効。 後述の「 ICE Duration 書式 」を参照。
maxfreq	コンテンツの最大更新間隔。	後述の「 ICE Duration 書式 」を参照。
minfreq	コンテンツの最小更新間隔。	後述の「 ICE Duration 書式 」を参照。

属性	用途	値およびデフォルト
monthday	<p>配信は、その月の指定された日付に制限される。</p> <p>指定された値が含まれていない月は、配信は行われぬ。たとえば、30 が指定されている場合の 2 月がこれに該当する。また、32 (またはそれ以上) が指定されている場合のすべての月も同様。XML の nmtokens 宣言と同様に、複数の値をスペース区切りで指定することもできる。値 any は、配信が日付 (1 日または複数) に制限されないことを意味する。これは、monthday をまったく指定しないことと同等である。値 last は、配信が月の最終日に制限されることを意味する。これは、対象となる月の 28、29、30 または 31 日として定義される。この属性が未指定の場合は any を意味する。</p>	[1 ~ 31、any または last]
startdate	スケジュールの適用が開始される日付。	<p>この属性が省略された場合、スケジュールは現在の日付に開始される。</p> <p>後述の「ICE Duration 書式」を参照。</p>
starttime	配信は、この時間に開始される。	<p>深夜は 00:00:00 と表示される。</p> <p>後述の「ICE Duration 書式」を参照。</p>
stopdate	スケジュールの期限が切れる日付。	<p>この属性を省略した場合、スケジュールは期限切れにならない。</p> <p>後述の「ICE Duration 書式」を参照。</p>
weekday	<p>配信は、指定された曜日に制限される。</p> <p>スペースで区切って複数の値を指定できる。特別な値 any を指定すると、配信は曜日に制限されない。この属性が未指定の場合は any を意味する。曜日は次のように指定される。</p> <p>月曜 1/ 火曜 2/ 水曜 3</p> <p>木曜 4/ 金曜 5/</p> <p>土曜 6/ 日曜 7</p>	[1 ~ 7 または any]

ICE DateTime 書式

単一の文字列で日付および時間を指定する必要がある場合の ICE DateTime 書式は、CCYY-MM-DDThh:mm:ss,s です。

C、Y、M、D および T は大文字です。

ICE Duration 書式

期間を指定する必要がある場合の ICE Duration 書式は、PnS (P および S は大文字で n は秒数) です。

フィルタ

filter 要素は、ダウンロードされたコンテンツ・ファイルに適用される変換を記述します。**filterset** には **filter** 要素が含まれ、各フィルタは **filterset** 内で **filter** 要素が記述されている順序で適用されます。指定できるフィルタは数種類あります。**filter** 要素の指定は、**type** 属性で指定した使用するフィルタの種類によって異なります。

次の要素について説明します。

- **filterset** 要素 (job 要素の子)
- **filter** 要素 (filterset 要素の子)
- **authentication** 要素 (filterset 要素の子)

filterset 要素 (job 要素の子)

この要素は、ソース・コンテンツの比較対象である属性の指定に使用されます。**filterset** 要素がない場合は、(**defaults** 要素で定義された) デフォルト **filterset** が使用されます。詳細は、4-2 ページの「**defaults** 要素」を参照してください。

filterset の各属性は、ソース・コンテンツの関連する特性と比較されます。**filterset** 自体が一致するとみなされるには、各属性がすべて一致する必要があります。**filterset** は、**siclon.config** に記述されている順に評価され、最初に一致した **filterset** が適用されます。**filterset** に子要素がある場合、親 **filterset** のテスト結果が **true** の場合に子要素が検索されるため、より全般的なフィルタセットの中により具体的なフィルタセットを配置することで、ユーザーは相互排他的なフィルタセットを指定できます。

属性	用途	値およびデフォルト
type	<p>ダウンロード済ファイルへのフィルタの適用時、特定の URL をダウンロードするかどうかの決定時、またはパスワード保護された URL の認証試行時などの異なるコンテキストで、レプリケーション・エンジンによって filterset が使用される。type 属性により、filterset の起動場所となるコンテキストが指定される。</p> <p>filter: この filterset と一致する URL に対し、ダウンロード時に子 filter 要素が適用され、これらのフィルタで指定された方法でコンテンツが変換される。</p> <p>exclude: この filterset と一致する URL に対し、コンテンツがダウンロードされない。</p> <p>include: 通常は除外される場合であっても、この filterset と一致する URL に対してコンテンツがダウンロードされる。</p> <p>authenticate: この filterset と一致する URL に対し、親 job 要素に関連付けられているデフォルトの username および password のかわりに、子 authenticate 要素が認証に使用される。</p> <p>transform-link: type="transform-link" を指定して filterset 要素を作成することで、ダウンロード中のコンテンツのリンクをリライトできる。URL がフィルタセットと一致するすべてのリンクは、後述のフィルタセット属性に応じてリライトされる。</p>	<p>[filter、exclude、include、authenticate または transform-link]</p> <p>デフォルト: filter</p>

属性	用途	値およびデフォルト
action	<p>added: 初めてダウンロードされる URL を一致させる。</p> <p>modified: すでに存在する URL を一致させる。</p> <p>removed: 使用されなくなった URL を一致させる。このアクションを含む filtersets は、ジョブの実行終了後に適用される。この属性は、必ず filterset の filter タイプと併用される。</p>	<p>added、modified、removed のいずれか、またはこれらの組合せ。複数の場合はスペースで区切る。</p> <p>デフォルト: "added modified"</p>
hostname	URL のホスト名 (URL のドメイン名部分) が指定されたホスト名と一致する場合は一致とみなされる。	[有効なドメイン名]
port	URL のポート番号が指定されたポート番号と一致する場合は一致とみなされる。	[有効なポート番号]
path	現在ダウンロード中の URL のファイル・パス (URL のホスト名に続く部分) と一致させるためのワイルドカード・パターン。	デフォルト: .*
pathfiltertype	<p>path 属性がファイルのワイルドカード・パターンまたは Perl の正規表現パターンのどちらであるかを指定する。パスがワイルドカード・パターンを指定する場合は、デフォルトで Java の正規表現構文がパターン・マッチングに使用される。次を参照すること。</p> <p>http://java.sun.com/j2se/1.4.2/docs/api/java/util/regex/Pattern.html</p>	<p>wildcard または perl</p> <p>デフォルト: wildcard</p>
mimetype	URL の MIME タイプがこのタイプで指定された値で始まる場合に一致とみなされる。したがって、 text は text/html および text/xml の両方と一致する。	デフォルト: text
job-attribute-name	マッチング対象の属性名を指定する。 job-attribute-value と併用する必要がある。	デフォルト: null
job-attribute-value	<p>マッチング対象の属性値を指定する。job-attribute-name と併用する必要がある (上を参照)。</p> <p>job-attribute-name および job-attribute-value を指定することで、指定された属性名と値のペアを含むジョブのみにフィルタセットが適用される。次に例を示す。</p> <pre><filterset job-attribute-name="offer-name" job-attribute-value="sports news" ></pre> <p>このフィルタセットは、属性 offer-name="sports news" を含むジョブのみに適用される。</p>	デフォルト: null
[その他の属性]	要素に含まれるその他のすべての属性について、 filterset は、この属性の値を項目の名前が同じメタデータ属性の値と比較する。項目が同じ名前属性を持ち、値が一致しない場合、項目はフィルタを通過しない。一致する場合は、残りの filterset が評価される。	

属性	用途	値およびデフォルト
convert-absolute-to-relative	この属性は、 type="transform-link" の場合に適用される。 true の場合、完全修飾された絶対 URL が、コンテンツの最上位に対する相対 URL に変換される。これにより、ダウンロード後のコンテンツを参照する際にエラーが発生しない。 false の場合、URL はそのままになる。	[ブール]
replace-url	この属性は、 type="transform-link" の場合に適用される。 リンクを指定された URL 文字列に置き換える。	[文字列]
transform-hook	この属性は、 type="transform-link" の場合に適用される。 ここに指定されている完全修飾された Java クラスを起動して、カスタム変換を起動する。このクラスは、 com.kinecta.replicator.TransformURLHook インタフェースを実装する必要がある（詳細は、 TransformURLHook インタフェースを参照）。	[文字列]
transform-hook-param	この属性は、 type="transform-link" の場合に適用される。 指定されている場合、この属性は transform-hook 属性で指定されているクラスのコンストラクタに渡される。	[文字列]

次に例を示します。

```
<filterset type="transform-link" path="*/subdir/" mimetype=""
  transform-hook="com.kinecta.examples.TransformhookExample"
  transform-hook-param="optional param used by the
    TransformhookExample constructor" />
```

```
<filterset type="transform-link" path="*/subdir/" mimetype=""
  convert-absolute-to-relative="true" />
```

```
<filterset type="transform-link" path="*/subdir/" mimetype=""
  replace-url ="/page-not-available.html" />
```

filter 要素 (filterset 要素の子)

filter 要素は、ダウンロードされたファイルに適用される変換を指定します。filterset には filter 要素が含まれ、各フィルタは filterset 内で filter 要素が記述されている順序で適用されます。フィルタは複数指定できます。

次に示す全般的な属性は、タイプに関係なくすべての filter 要素に適用できます。filter 要素の残りのコンテンツは、type 属性で指定された使用するフィルタの種類によって異なります。

これらの属性 (change-path-regex、change-extension および append-extension) は、フィルタ出力の名前の変更で使用されます。複数のフィルタが実行される場合は、最後のフィルタに含まれている設定が有効になり、出力のファイル名はこれらの値によって決まります。

属性	用途	値およびデフォルト
type	(必須) フィルタのタイプを分類する。	regex、cmd、java または xsl
src	XSL を使用してファイルを変換する場合に必要。XSL スタイルシートのフルパスを指定する。	デフォルト: なし
change-path-regex	正規表現を使用してパスを変更できるようにする。	デフォルト: なし
change-extension	出力ファイルの拡張子を指定する。 入力ファイルに拡張子がない場合は、Publishing Utility によってドット (.) およびこの属性で指定されたテキストが追加される。 入力ファイルに既知の拡張子 (たとえば .xml) が付いている場合は、拡張子のみがこの属性で指定されたテキストに置換される。 既知の拡張子でない場合は、ファイル名の後にドット (.) およびこの属性で指定されたテキストが追加される。	デフォルト: なし
no-save	ダウンロードされたファイルで 1 つ以上のフィルタを実行した後、出力ファイルを保存するかどうかを指定する。これにより、フィルタは、メタデータを取り出してコンテンツ自体を取り消すことが可能になる。 true: フィルタが実行された後、出力がファイルに保存されない。 false: フィルタが実行された後、出力がファイルに保存される。	デフォルト: false
append-extension	この属性により、ファイル名へのその他の変更を行わずに特定の拡張子が追加される。たとえば、この属性が html に設定されている場合、readme.txt という名前のファイルは readme.txt.html に変更される。	デフォルト: null

サポートされている **filter** タイプは次のとおりです。

regex フィルタ・タイプ

PERL 置換構文を使用して、ドキュメントに正規表現置換を適用できます。**filter** 要素のコンテンツは、PERL 置換として処理されます。PERL 置換構文の詳細は、<http://www.perl.org/> を参照してください。

例 (UNIX 固有) :

```
<filter type="regex">
  s/img/object/sg
  <!-- replace every instance of "img" with "object" -->
</filter>
```

cmd フィルタ・タイプ

cmd フィルタは、コマンドラインから起動され、別個のプロセスを起動します。ダウンロードされたファイルは入力として使用されます。入力および出力は、対応するファイルのパス名をコマンドラインで渡して指定されます。**Publishing Utility** は、コマンドラインで文字列 **%%fi** を検索し、コンテンツが含まれている一時入力ファイルのパスに置き換え、文字列 **%%fo** をコンテンツが次のフィルタに送られる出力ファイルのパスに置き換えることでこれを実行します。その後、コマンドラインを実行します。

cmd フィルタの定義内で使用できる追加の変数は次のとおりです。**%%ff** は、ダウンロード中のファイルの名前に変換されます。**%%o** は、この項目が含まれているオファーの名前に変換されます。**%%u** は、元の項目の URL に変換されます。**%%aXXXXX** は、**job** 要素内の **XXXXX** という名前の属性を検索してその属性の値を代用します。

例 (オペレーティング・システム固有のコマンドライン) :

```
<filter type="cmd" use-input-as-output="false">
  /cmd/customfilter.pl %%fi %%fo
  <!--invoke a custom Perl script -->
</filter>
```

注意 : DOS シェル・コマンドを使用する **cmd** フィルタを実行する場合は、次の構文を使用して DOS シェルを起動する必要があります。

```
cmd /C
```

これに続いて、シェルに認識される任意の DOS コマンドを使用できます。

次の属性は **cmd** フィルタのみに適用されます。

属性	用途	値およびデフォルト
error-exit-code	失敗 (エラー) を表すコードを戻すコマンドを指定する。	オプション
success-exit-code	成功 (エラーなし) を表すコードを戻すコマンドを指定する。	オプション
use-input-as-output	true: 入力ファイルが出力ファイルとして使用される。 false: 入力ファイルはそのまま、出力ファイルに別の名前が付く。	オプション [プール] デフォルト : true

java フィルタ・タイプ

kinecta.replicator.ContentFilter インタフェースを実装するクラス・ファイルを指定できます。クラス・ファイルは、Java クラスパスを介してアクセスできることが必要です。ダウンロード済ファイルでこのフィルタを起動するたびに、クラスのオブジェクトがインスタンス化され、オブジェクトで filterContent() メソッドが起動されます。これにより、任意の複雑なフィルタを作成することが可能になります。

filter 要素のコンテンツは、実行する Java クラスの名前として処理されます。これは、完全修飾されたクラス名、つまり、パッケージ（該当する場合）の名前を含めた名前にする必要があります。

例：

```
<filter type="java">
  adc.extras.TextOnlyFilter
  <!--invoke a custom java filter -->
</filter>
```

xsl フィルタ・タイプ

XSL スタイルシートをダウンロード中の XML ファイルまたは HTML ファイルに適用できます。そのためには、タイプを xsl に設定したファイルを作成します。XML ファイルまたは HTML ファイルは、XSL プロセッサからの出力によって置き換えられます。

例：

```
<filter type="xsl" src="stylesheet.xml">
</filter>
```

次の属性は XSL フィルタのみに適用されます。

属性	用途	値およびデフォルト
src	(必須) XSL スタイルシートの場所	有効なローカル・ファイルのパス名または URL

authentication 要素 (filterset 要素の子)

authentication 要素は、パスワード保護された URL のユーザー名およびパスワードを指定します。子要素はなく、2つの属性が必須です。

属性	用途	値およびデフォルト
username	(必須) ユーザー ID (名前)	文字列
password	(必須) ユーザー・パスワード	文字列

トリガー

トリガーを使用することで、レプリケーション・エンジンで、パッケージのダウンロード前またはダウンロードの完了後にコマンドを実行できるようになります。トリガーは、**Subscription Client** の構成ファイルで定義されます。

トリガーは、**job** 要素のコンテキスト内に含まれる **trigger** 要素によって定義されます。

トリガーには次の 3 つのタイプがあります。

- **cmd** トリガー
- **http-post** トリガー
- **Java** トリガー

必要に応じて、トリガー固有のその他の属性を定義するか、**trigger** 要素内にコンテンツを埋め込むことができます。

cmd トリガー

cmd トリガーを使用すると、シェル・スクリプトまたはオペレーティング・システム・コマンドをトリガーとして実行できます。コマンドは、オペレーティング・システムに渡されます。構文は次のとおりです。

```
<trigger when="before|after"
  type="cmd"
  [ignore-failure="true|false"]
  [name="triggername"]
  run-on-abort="true|false"
  run-if-unchanged="true|false">
  [command line arguments to be passed to the operating system]
</trigger>
```

when: (必須) トリガーを実行するタイミング (パッケージのダウンロード前またはダウンロード後) を指定します。

type: (必須) トリガーのタイプを **cmd** (コマンドライン) トリガーとして指定します。

ignore-failure: トリガーが正常に実行されることが必須かどうかを指定します (詳細は、4-15 ページの「[Java トリガー](#)」を参照)。

- **true:** トリガーが失敗した場合でもパッケージが正常にダウンロードされたとみなされません。
- **false:** (デフォルト) トリガーが失敗した場合はパッケージが正常にダウンロードされなかったとみなされます。

name: トリガーの名前を指定します。

run-on-abort: ジョブでエラーが発生した場合でもコマンドを実行するかどうかを指定します。デフォルトは **false** です。

run-if-unchanged: コンテキストに変更がない場合でもトリガーを実行するかどうかを指定します。デフォルトは **false** です。

次に示す DOS コマンドライン・トリガーでは、ファイル名拡張子が **.xml** のすべてのファイルの名前が、ファイル名拡張子 **.html** を使用するように変更されます。

```
<trigger when="after" type="cmd">
  cmd /C rename *.xml *.html
</trigger>
```

コンテンツ・ファイルがダウンロードされたディレクトリでこのトリガーを実行するには、**%d** を使用し、その後ろに **¥** (Windows 環境の場合) または **/** (UNIX 環境の場合) を付けてダウンロード・ディレクトリの名前を表します。

次に示す DOS 固有の例では、ダウンロード・ディレクトリにあるすべての .xml ファイルのファイル名拡張子が HTML ファイル名拡張子に変更されます。

```
cmd /C ren %%d%*.xml *.html
```

cmd トリガーの定義内では、次に示す追加の変数を使用できます。

- **%%o:** この項目が含まれているオファの名前に変換されます。
- **%%aXXXXX:** job 要素内で XXXXX という名前の属性を検索し、その属性の値を代用します。

http-post トリガー

http-post トリガーは、HTTP POST 機能を使用して、すべてのファイルを URL の場所に送信します。構文は次のとおりです。

```
<trigger when="before|after"  
  type="http-post"  
  url="URL"  
  file="filename"  
  [ignore-failure="true|false"]  
  [name="triggername"] />
```

when: (必須) トリガーを実行するタイミング（パッケージのダウンロード前またはダウンロード後）を指定します。

type: (必須) トリガーのタイプを http-post として指定します。

url: file 属性で指定されたファイル名のポスト先となる URL を指定します。

file: ダウンロードするファイルのフルパス。

ignore-failure: トリガーが正常に実行されることが必須かどうかを指定するオプションのエントリです（詳細は、4-15 ページの「[Java トリガー](#)」を参照）。

- **true:** トリガーが失敗した場合でもパッケージが正常にダウンロードされたとみなされません。
- **false:** (デフォルト) トリガーが失敗した場合はパッケージが正常にダウンロードされなかったとみなされます。

name: トリガーのオプションの名前を指定します。

http-post は、たとえばログ・ファイルのコピーを別の場所に送る場合に使用できます。

次に例を示します。

```
<trigger when="after" type="http-post"  
  url="http://support.stellent.com/rcv_log"  
  file="c:\Program Files\Stellent\Stellent Subscription Client\subscriber.log">
```

Java トリガー

Java トリガーは、次のように構成エントリを定義することで起動される java クラスです。

```
<trigger when="before|after"
  type="java"
  code="classpath"
  [ignore-failure="true|false"]
  [name="triggername"] />
```

when: (必須) トリガーを実行するタイミング（パッケージのダウンロード前またはダウンロード後）を指定します。

type: (必須) トリガーのタイプを Java クラスとして指定します。

code: (必須) ロードされる Java クラスの完全指定されたクラス名。TriggerProcess インタフェースを実装する必要があります（4-15 ページの「Java トリガーのプログラミング」を参照）。

ignore-failure: トリガーが正常に実行されることが必須かどうかを指定します。

- **true:** トリガーが失敗した場合でもパッケージが正常にダウンロードされたとみなされず。
- **false:** (デフォルト) トリガーが失敗した場合はパッケージが正常にダウンロードされなかったとみなされます。

name: トリガーの名前を指定します。

トリガーが失敗した場合、デフォルトでは、レプリケーション・エンジンはトリガーの処理を停止します。Publishing Utility によって確認が要求された場合、レプリケーション・エンジンは、パッケージの転送に失敗したことを示す ICE メッセージ (430) を送信します。ICE 状態が更新されていないため、パッケージは再度要求されます。ignore-failure エントリが true に設定されている場合は、これらのアクションは実行されません。

Java トリガーのプログラミング

Java トリガーを実装する場合、Java クラスは TriggerProcess インタフェースのみを実装する必要があります。このインタフェースによって 1 つのメソッドが定義されます。

```
public boolean trigger (SiteReplicator repl, org.w3c.com.Element
  triggerTag, boolean aborted, boolean changeHappened)
```

SiteReplicator repl: このトリガーを起動した SiteReplicator。これを使用してトリガーが起動されたコンテキストを取得できます。

org.w3c.com.Element triggerTag: このトリガーを指定した trigger 要素。これを使用して、要素内で指定されている他の属性を取得できます。

boolean aborted: パッケージの配信が中断された場合は true。配信の開始前にコールされたトリガーに対しては、常に false に設定されます。

boolean changeHappened: 前の配信以降にサブスクリプションが変更された場合は true。レプリケーションの開始前に実行されたトリガーに対しては、常に false に設定されます。

トリガーが正常に処理された場合は true、失敗した場合は false が戻されます。トリガーが false を返し、確認が要求されるサブスクリプションに関連付けられている場合は、確認失敗のメッセージ (ICE コード 430) が送信されます。

定義されたトリガーは、パッケージのダウンロードごとに実行されます。ただし、完全なパッケージが Publishing Utility によって複数の小さいパッケージに分割されている場合は、小さいパッケージごとにトリガーが適用されます。

サンプル

次に示すのは、SimpleTriggerProcess.java からのサンプルです。

```
/** This class is a simple trigger demonstration */
package com.kinecta.util;
import com.kinecta.replicator.*;
import java.awt.*;
import org.w3c.dom.Element;
public class SimpleTriggerProcess implements TriggerProcess
{
    // must support a no-argument constructor, as this gets loaded
    // via Class.newInstance()
    public SimpleTriggerProcess()
    {}
    /** Implementation of trigger */
    public boolean trigger( SiteReplicator repl, Element triggerTag,
        boolean aborted, boolean changeHappened )
    {
        Toolkit.getDefaultToolkit().beep();
        System.out.println( "THIS SPACE FOR RENT" );
        return true;
    }
}
```

シンク

sink 要素は、選択したりポジトリにコンテンツを格納するために使用できる、ContentSink オブジェクトを表します。シンクが指定されていない場合、レプリケーション・エンジンは、ダウンロードされたコンテンツをファイル・システム上に配置します。構文は次のとおりです。

```
<sink factory="xxx.xxx.xxx.Factory"/>
```

その他のシンク固有の属性またはコンテンツを要素に追加でき、これらはコンテンツ・シンクによって読み取られます。factory 属性には、com.kinecta.replicator.ContentSinkFactory インタフェースを実装する Java クラスの完全修飾クラスパスを含める必要があります。

1 つの job 要素に複数のシンクを指定して、複数の場所にコンテンツを格納することができます。カスタム・コンテンツ・シンクおよびファイル・システムにコンテンツをダウンロードする場合は、レプリケーション・エンジンが提供されるデフォルト・コンテンツ・シンクへの参照を含める必要があります。

```
<sink factory="my.custom.ContentSinkFactory" />
<sink factory="com.kinecta.util.FileSystemSink" />
```

レプリケーション・エンジンのデフォルト・コンテンツ・シンクでは、追加の属性 download-directory が使用されます。この属性が指定されている場合、コンテンツは指定されたディレクトリにダウンロードされます。指定されていない場合、コンテンツ・シンクはその job 要素の localdir 要素を使用します。ファイル・システム上の複数の場所にダウンロードする場合は、1 つ以上の FileSystemSink を指定し、それぞれに異なる download-directory 属性を使用します。

job 要素および filter 要素の DTD

この構成ファイル・フラグメントには、job 要素および filter 要素の XML Document Type Definition (DTD) が含まれています。

```

<!ELEMENT defaults (ice-delivery-rule?, filterset*, trigger*, sink*)>

<!-- ice-delivery-rule, filtersets that appear here are default for jobs -->

<!ELEMENT job (localdir+, ice-delivery-rule?, trigger*, filterset*, sink*)>

<!-- ice-delivery-rule, filtersets that appear here are local to this job (override the
default) -->

<!ATTLIST job
%BASIC;
url %URI; #REQUIRED
username CDATA #IMPLIED
password CDATA #IMPLIED

<!-- http website crawling attributes -->
<!ATTLIST job
baseref CDATA #IMPLIED
dust %BOOLEAN_ENUM; "no"
user-agent CDATA "Mozilla/4.x (Win95)"
max-depth CDATA "-1"
max-pages CDATA "-1"
absolute-to-relative %BOOLEAN_ENUM; "true"
>

<!-- multimedia attributes -->
<!ATTLIST job
prntohttp CDATA #IMPLIED
prntopnm CDATA #IMPLIED
mmstohttp CDATA #IMPLIED
mmstomms CDATA #IMPLIED
>

<!-- attributes specific to ICE subscription jobs -->
<!ATTLIST job
subscription-id CDATA #IMPLIED
subscription-state CDATA #IMPLIED
offer-name CDATA #IMPLIED
atomic-use (false | true) "false"
editable (false | true) "false"
ip-status CDATA #IMPLIED
rights-holder CDATA #IMPLIED
showcredit (false | true) "false"
usage-required (false | true) "false"
>

<!ELEMENT localdir EMPTY>
<!ATTLIST localdir
%BASIC;
dir CDATA #REQUIRED
>

<!-- from the ice spec: see http://www.w3.org/TR/NOTE-ice -->
<!ELEMENT ice-delivery-rule EMPTY>
<!ATTLIST ice-delivery-rule
duration CDATA #IMPLIED
maxfreq CDATA #IMPLIED
minfreq CDATA #IMPLIED

```

```
monthday NMTOKENS #IMPLIED
startdate CDATA #IMPLIED
starttime CDATA #IMPLIED
stopdate CDATA #IMPLIED
weekday NMTOKENS #IMPLIED
>

<!/ELEMENT filterset (filterset* | filter* | authentication?)>
<!ATTLIST filterset
%BASIC;
type (filter | exclude | include | authentication) "filter"
action NMTOKENS "added modified"
hostname CDATA #IMPLIED
port CDATA "-1"
path CDATA "*"
pathfiltertype (wildcard | perl) "wildcard"
mimetype CDATA "text"
>

<!/ELEMENT authentication EMPTY>
<!ATTLIST authentication
%BASIC;
username CDATA #REQUIRED
password CDATA #REQUIRED
>

<!/ELEMENT filter (#PCDATA | replace+)>
<!ATTLIST filter
%BASIC;
type (java | perl | cmd | XSL) #REQUIRED
src %URI; #IMPLIED
>

<!-- attributes for filter when type="cmd" -->
<!ATTLIST filter
success-exit-code CDATA #IMPLIED
error-exit-code CDATA #IMPLIED
use-input-as-output %BOOLEAN_ENUM; "true"
>

<!/ELEMENT sink EMPTY>
<!ATTLIST sink
%BASIC;
factory CDATA "com.kinecta.util.FileSystemSink"
download-directory CDATA #IMPLIED
>
```

構成ファイルのプロパティ

スタートアップ構成ファイルに含まれるエントリを編集して、Publishing Utility の操作特性を制御できます。ほとんどの実装では、このファイルは編集不要で、多くのプロパティは個々のサーバー環境に適用されません。構成ファイルは、Publishing Utility のインストール・ディレクトリにあります。

この章の内容は次のとおりです。

- [root](#) 要素
- [options](#) 要素
- [services](#) 要素
- [database](#) 要素
- [content-sources](#) 要素
- [extensions](#) 要素
- [ldap](#) 要素
- [j2ee](#) 要素

root 要素

構成ファイルの root 要素は、常にシンジケートである必要があります。子要素として出現する可能性がある要素は次のとおりです。

- options
- services
- database
- content-sources
- extensions

options 要素

この項では、options 要素および次のサブ要素について説明します。

- [timeFormat 要素](#)
- [log 要素](#)
- [proxy 要素](#)
- [ssl 要素](#)

options 要素の属性

options 要素には、Connection Server の動作を制御するグローバル設定が含まれます。この要素には次の属性が含まれます。

属性	用途	値およびデフォルト
browser-path	<p>Connection Server の管理に使用される Web ブラウザのパスを指定する。</p> <p>Connection Server の起動時にブラウザを自動で起動する場合、なおかつ Connection Server がブラウザを検索できない場合のみ必須。</p>	<p>有効なファイルのパス。</p> <p>デフォルト: オペレーティング・システムに対して定義されているデフォルト・ブラウザのパス</p>
content-browsing	Content Server に接続する Web ブラウザで、ディレクトリ内にリストされているファイルを表示できるかどうかを指定する。	<p>true: 参照有効</p> <p>false: 参照無効</p> <p>デフォルト: true</p>
custom-item-fields	<p>存在する場合は ICE パッケージでコンテンツ項目とともに送信する必要がある、カスタム・メタデータ・プロパティのカンマ区切りのリスト。</p> <p>メタデータ・プロパティがリストされていない場合やこの属性がない場合、コンテンツ・ソースによってコンテンツ項目に関連付けられているにもかかわらず、メタデータは送信されない。</p>	リストには最大 26 のプロパティを含めることができる。

属性	用途	値およびデフォルト
default-pull-delivery-rule-name	<p>この属性は、デフォルトのプル配信ルールの名前を定義する。デフォルト配信ルールには、特別な制限および動作がある。たとえば、削除や名前変更ができない。</p> <p>pull または push 属性を使用することで、これらの特別な条件を持つ名前付き配信ルールを変更できる。</p>	デフォルト : Default Delivery Rule
default-push-delivery-rule-name	<p>この属性は、デフォルトのプッシュ配信ルールの名前を定義する。デフォルト配信ルールには、特別な制限および動作がある。たとえば、削除や名前変更ができない。</p> <p>pull または push 属性を使用することで、これらの特別な条件を持つ名前付き配信ルールを変更できる。</p>	デフォルト : Default Push Delivery Rule
download-base	ローカルで処理されるすべてのコンテンツが格納されるローカル・ディレクトリを指定する。	有効なファイルのパス。
filewatcher-checksum	<p>ファイルが変更されているかどうかを調べるために、ファイルでのチェックサムの計算を指定する。タイムスタンプの使用を置換して、ファイルへの変更を調べる。</p> <p>非常に大きいファイルが配布されている場合は、チェックサムの計算によってパフォーマンスに悪影響が出る可能性がある。</p>	<p>true: チェックサム計算有効</p> <p>false: チェックサム計算無効</p> <p>デフォルト : false</p>
hostname	スタートアップ時に自動的に決定されるデフォルト・ホスト名をオーバーライドできる。	<p>有効なホスト名。</p> <p>デフォルト : スタートアップ時に決定</p> <p>現在のホスト名を確認するには、Connection Server のスタートアップ時に次の行を確認する。</p> <p>"Starting Connection Server on <hostname>"</p>

属性	用途	値およびデフォルト
ice-cache-silence-time-out	この属性が有効（およびキャッシュが有効）な場合、指定された時間内にデータベースへの新しい項目の追加またはデータベースからの項目の削除がキャッシュによって検出されなかった場合は、エラーが発生したとみなされます。その後、新しいアクティビティが検出されるまで、Connection Server によってすべての接続が拒否され、ICE コード 503 のエラー・メッセージが戻されます。また、このエラーがログ・ファイルに記録されます。	0 : 無効 0 より大きい値 : ミリ秒単位の指定時間 デフォルト: 0
ice-cache-size	Connection Server のキャッシュに含めることができる ICE 項目の最大数を指定する。	デフォルト: 5000
ice-cache-update-interval	Connection Server が ICE 項目キャッシュの更新のためにデータベースに問い合わせる頻度をミリ秒単位で指定する。	デフォルト: 10000 (10 秒)
ice-failover-adjustment	Subscription Client がバックアップ・サーバーとして稼働中の ICE サーバーに接続したときにこの属性が有効化されている場合、または Subscription Client がバックアップ・サーバーとして稼働中の ICE サーバーに以前接続していた場合は、Connection Server によって、指定されたミリ秒数でサブスクリプション状態がロールバックされます。その結果、冗長な追加または削除が送信される可能性があります。	0 : 無効 0 より大きい値 : ロールバックするミリ秒数 デフォルト: 0
intra-distributed-name	分散アーキテクチャ環境内でこのマシンの名前を表す。この名前は、マシンへの Connection Server のインストールで共通して使用され、それ以外には使用されない。	デフォルト: デフォルト値なし
MAC-address	Connection Server がユーザー用 UUID を生成するために、MAC アドレスが必要である。ほとんどの状況では MAC アドレスは自動的に検出される。ただし、Connection Server で検出されないインスタンスもある。 そのような場合は、この属性を使用して MAC アドレスを手動で挿入できる。	書式: コロンで区切られた 16 進数字の 6 つのペア XX:XX:XX:XX:XX:XX それぞれの X は、16 進数字 0 ~ 9 または A ~ F を表す。 例: 9f:6a:03:4f:0d:09
max-package-size	1 つの ICE パッケージで配信可能な項目の最大数を指定する。	デフォルト: 500

属性	用途	値およびデフォルト
max-push-bps	Connection Server によって ICE パッケージがサブスクライバにプッシュされる率の最大値を指定する。	値の単位はバイト / 秒。値 -1 は制限なしを意味する。
max-push-package-creation-threads	プッシュを介して配布するパッケージを生成するための最大スレッド数を指定する。	デフォルト : 制限は課せられない。
max-push-retry	コンテンツの push モード配信の試行時に Subscription Client への接続をリトライするまでの、Connection Server の最大待機時間を秒数で指定する。デフォルトでは、この構成設定の値を使用する前に、短い間隔で何度か試行が繰り返される。	デフォルト : 300000 (5分)
max-push-threads	push モード配信によって開かれるスレッドの最大数。	デフォルト : 6
min-push-threads	push モード配信によって開いたままになるスレッドの最小数。	デフォルト : 3
push-connect-timeout	タイムアウトになるまでに、プッシュがクライアントへの接続に費やせる時間をミリ秒単位で指定する。	デフォルト : 30000
package-flush-interval	ファイルウォッチャ (およびその他のコンテンツ・ソース・マネージャ) の項目を追加できる最小時間間隔。	デフォルト : 5 (秒)
run-interactive	スタートアップ時に「Status Window」を開くかどうかを指定する。	true: スタートアップ時に「Status Window」が開く。 false: スタートアップ時に「Status Window」が開かない。 デフォルト : true
start-browser	スタートアップ時に Web ブラウザを起動する (「Administrator」メニュー・ページも表示される) かどうかを指定する。	true: スタートアップ時に Web ブラウザが起動する。 false: スタートアップ時に Web ブラウザが起動しない。 デフォルト : true

次に示す **options** 要素の例では、2つのオプションが設定されます。

```
<options browser-path="/usr/local/bin/netscape" content-browsing="false">
```

timeFormat 要素

この属性は、時間データの表示および入力に関するパラメータを指定します。これらの設定は、Connection Server の「General Settings」インタフェース・ページで構成できます。

属性	用途	値およびデフォルト
use24hour	24 時間形式または 12 時間形式のどちらを使用するかを指定する。	true: 24 時間形式を使用 false: 12 時間形式を使用 デフォルト: false
time_format	localTime または GMT のどちらの時間を使用するかを指定する。	デフォルト: localTime
sign	+ 記号または - 記号を使用して、GMT からの時間と分のオフセットとして時間を指定できる。	+ を使用すると GMT 時間に時間 / 分が加算される。 - を使用すると GMT 時間から時間 / 分が減算される。 デフォルト: 空白
hours	オフセットのために GMT に対して加算または減算する時間数を指定する。	デフォルト: 空白
minutes	オフセットのために GMT に対して加算または減算する分数を指定する。	デフォルト: 空白

log 要素

log サブ要素の属性を次の表に示します。log 要素には子要素はありません。

属性	用途	値およびデフォルト
default	ログに書き込まれるログ・メッセージの最低優先度を指定する。 メッセージの優先度の詳細は、A-7 ページの「 ロギング・レベル 」を参照。	デフォルト: info
overwrite	既存のログに新しいログを追加するかどうかを選択する。追加しない場合、ログ・ファイルは Connection Server が起動するたびに上書きされる。	true: Connection Server が起動するたびに既存のログ・ファイルが上書きされる。 false: 既存のログ・ファイルにログ・メッセージが追加される。 デフォルト: false

ロギング・レベル

Connection Server の様々なコンポーネント機能からログに記録されるイベントのレベルを設定できます。重大度レベルの値は次のとおりです。

- **debug**: プログラマ用
- **verbose**: 複数行のステータス・メッセージ
- **info**: 情報メッセージ
- **warning**: 異常な状態
- **error**: 操作失敗
- **critical**: 重大なエラーまたはクラッシュ

次に示す **log** 子要素の例では、すべての機能のデフォルト・ロギング・レベルおよび2つの機能のロギング・レベルが設定されます。

```
<options>
  <log default="warning" ice="critical" replicator="debug"/>
</options>
```

この例では、デフォルト・ロギング・レベルが **warning** に設定され、より重大度の低いメッセージが抑止され、より重大度の高いメッセージが戻されます。ICE 機能からのメッセージは、優先度が **critical** でないかぎり抑止され、レプリケータ機能については、デバッグ情報を含むすべてのイベントが記録されます。

一般的に、機能のロギング・レベルを設定する際には、(前述の例のように) 構成ファイルにタグを追加するのではなく、Connection Server ユーザー・インタフェースを使用することをお勧めします。構成ファイルを使用してレベルを設定すると、ユーザー・インタフェースを使用して設定したロギング・レベルは構成ファイルでの入力によってオーバーライドされます。通常、構成ファイルに *log default* タグを追加するのは、サーバーの起動時にエラーに関する追加情報を取得する場合にかぎられます。

ロギング機能

イベントのロギングを指定できる機能は次のとおりです。

機能	説明
analyzer	webcrawler (csm.web) で使用されるコンポーネント。ダウンロードのためにサイトをクロールする際に Web ページや JavaScriptなどを分析する。
audit	認可イベントを記録し、変更されたコンテンツおよび変更したユーザーの監査証跡を提供する。
auto-upgrade	インターネットを介して配信されたソフトウェアの更新を処理するサブスクリバ・コンポーネント。
csm.dirs	ファイルのディレクトリをチェックするためのコンテンツ・ソース・モニター (csm)。ファイルウォッチャとも呼ばれる。
csm.files	個々のファイルのセットを監視するためのコンテンツ・ソース・モニター (項目レベル・オファァとも呼ばれる)。
csm.web	Web サイトまたは FTP サイトを監視するためのコンテンツ・ソース・モニター。
database	サーバーとデータベースとの基本的な相互作用は、すべてここに記録される (カスタム・データベース・コンテンツ・ソース・モニターなどを除く)。

機能	説明
dataobject	システムに含まれる様々なエンティティ（オファー、サブスクリプション、パッケージ）およびシステムとデータベースとの相互作用に関するメッセージ。
date-time	日付または時間の変換に関するメッセージは、すべてここに記録される。
delivery	配信方法とは関係のない、コンテンツ配信全般に関するメッセージ。
delivery.ftp	FTP 経由でのコンテンツ配信固有のメッセージ。
delivery.ice	ICE 経由でのコンテンツ配信固有のメッセージ（プルとプッシュの両方の ICE サブスクリプションがここに記録される）。
delivery.mail	電子メール経由でのコンテンツ配信固有のメッセージ。
ejb	Connection Server と J2EE アプリケーション・サーバーとの相互作用に関連するメッセージ。
event	リソース（オファー、サブスクリライブおよびサブスクリプションなど）の作成、変更、削除、およびこれらのイベントのネットワーク上での配信に関する通知。
filter	コンテンツのフィルタ処理で生成されたメッセージ。
httpd	Connection Server の組込み Web サーバーで生成された接続およびネットワークに関するメッセージ。
httpd.content	Connection Server の組込みコンテンツ・サーバーで生成された（コンテンツ・ソース・モニターからのファイルの処理に関する）メッセージ。
httpd.tomcat	Connection Server の管理サーバーで生成されたメッセージ。
ice	Connection Server と Subscription Client の間で交換された実際の ICE メッセージ、およびそれらのメッセージの処理。
ice-cache	Connection Server の ICE キャッシュからの挿入および削除に関するメッセージ（Subscription Client に送信される項目をキューするためのサブシステム。これによって、可能なときにいつでも配信が最適化される）。
KTL	Kinecta Transformation Language で生成されるメッセージ。
ldap	LDAP サーバーとの通信時に LDAP 同期システムで生成されるメッセージ。
logging	データベースや電子メールなどのファイルへのロギングに関して、ロギング・システム自体で生成されたメッセージ。
login	ユーザーによる Connection Server へのログオン試行を記録する。
replicator	Web サイトのクロールに csm.web で使用されるコンポーネント。Subscription Client でも使用される。 トリガーおよびコンテンツ・シンクは、この機能に記録される。コンテンツ・シンクは、異なるリポジトリにコンテンツを格納するためのモジュールで、コンテンツ・ソース・モニターの論理上の反意語。
scheduler	コンテンツの更新、配信などの時間を記録する。
security	セキュリティおよび認可のサブシステムからの全般的なメッセージ。

機能	説明
serializer	コンテンツ・ソース・モニターのトランザクション境界を処理するコンポーネントで生成されるメッセージ。
soap	SOAP (Simple Object Access Protocol) トランザクション・アクティビティを記述する。
sweeper	replicator の後始末を行う。
syndicator	Connection Server 自体の全般的な操作によって生成されたメッセージ (情報メッセージが最も多く含まれる)。
template	Connection Server による、イベント・テンプレートで定義された電子メール・メッセージの送信によって生成されたメッセージ。
ui	TomCat サーバーではなく管理 JSP ページ自体からのメッセージ。
xml	独自の xml/html パーサー。様々な場所で使用されるが、主に ice パッケージの処理に使用される。

proxy 要素

proxy サブ要素の属性を次の表に示します。proxy 要素には子要素はありません。

属性	用途	値およびデフォルト
host	プロキシ・サーバーの IP アドレスまたはホスト名を指定する。	プロキシ・サーバーの有効な IP アドレスまたはホスト名。 デフォルト: null (-1)
password	プロキシ認証のパスワードを指定する。	セキュアなプロキシ・サーバーの有効なパスワード。
port	プロキシ・サーバーのポート番号を指定する。	有効なポート番号。 デフォルト: null (-1)
proxysset	プロキシ・サーバー設定が設定されているかどうかを示す。	true: プロキシ・サーバー設定が設定されている。 false: プロキシ・サーバー設定が設定されていない。 デフォルト: false
ssl-port	Secure Sockets Layer (SSL) リクエスト用にプロキシ・サーバーで使用されるポート番号を指定する。	有効なポート番号。 デフォルト: null (-1)
username	プロキシ認証のユーザー名を指定する。	セキュアなプロキシ・サーバーの有効なユーザー ID。

一部の HTTP プロキシ・サーバーでは、ユーザー名およびパスワードが要求されます。構成ファイルの **proxy** 要素に **username** タグおよび **password** タグを含めた場合は、Connection Server でこれらのプロキシ・サーバーを使用して ICE プッシュ配信を行えます。Connection Server では、ICE プッシュのみに対して HTTP プロキシ認証がサポートされます。次に、proxy 要素の例を示します。

```
<options>
  <proxy host="proxy.stellent.com" port="3128" proxysset="true"
    username="user" password="password"/>
</options>
```

注意: Web クローラはプロキシ認証を実行できません。

ssl 要素

ssl (Secure Socket Layer) サブ要素の属性を次の表に示します。ssl 要素には子要素はありません。

属性	用途	値およびデフォルト
enable	SSL が Publishing Utility で使用されるかどうかを指定する。この属性を true に設定すると SSL が有効になる。	true: Publishing Utility は、SSL セキュリティを使用して管理ユーザー・インタフェースおよび ICE サーバーに接続する。 false: Publishing Utility は SSL 以外のポートのみを使用できる。 デフォルト: false
required	SSL セキュリティのみを使用可能とし、他のプロトコルの使用を禁止するかどうかを指定する。	true: SSL のみ使用可能。SSL 以外の接続はサポートされない。 false: SSL および SSL 以外の接続の両方がサポートされる。 デフォルト: false
admin	管理ユーザー・インタフェースが SSL を介して有効化されるかどうかを指定する。この属性を true に設定すると Web ベースのインタフェースが有効になる。	true: 管理ユーザー・インタフェースが有効化される。 false: 管理ユーザー・インタフェースが有効化されない。 デフォルト: false
keystorefilename	SSL 証明書ファイルの名前。 yourfilename: 実際の証明書ファイルの名前を提供する。	
keystorepass	SSL キーストア・パスワード。 yourpassword: 実際のパスワードを提供する。	

Site Studio Publishing Utility による Secure Sockets Layer (SSL) 証明書の提供は、現在では行われません。SSL 証明書を作成し、構成ファイルを編集して SSL を有効化する必要があります。次に、ssl 要素の例を示します。

```
<options>
  <ssl enable="true" required="false" admin="true"
    keystorefilename="yourfilename" keystorepass="yourpassword"/>
</options>
```

services 要素

この項では、services 要素および次のサブ要素について説明します。

- [admin-server 属性](#)
- [content-server 要素](#)
- [admin-server 属性](#)
- [ice-server 要素](#)
- [master-server 要素](#)

次に示す **services** の構成例では、ICE サーバーが自動的に起動し、他の 2 つのサーバーは自動的に起動しません。ポート番号が割り当てられています。

```
<services>
  <ice-server port="8890" />
  <content-server start="false" port="8891"/>
  <admin-server start="true" port="8889" />
  <master-server receiver1="http://slavel:8890"/>
</services>
```

admin-server 属性

この属性は、ブラウザベースの管理者インタフェースを介して Connection Server を管理できる、管理サーバーの操作パラメータを指定します。

属性	用途	値およびデフォルト
max-threads	このサービスが作成できるリクエスト処理スレッドの最大数を指定する。指定されたスレッド数を超過することはない。	整数 デフォルト: 5
max-thread-queue	バックログされるリクエストの最大許容数を指定する。	整数 デフォルト: 100
min-threads	このサービスの開始時にサービスによって作成されるリクエスト処理スレッドの初期数を指定する。指定された数のスレッドが常に開始される。	整数 デフォルト: 1
port	サービスがリスニングするポートを指定する。	有効なポート番号 デフォルト: 8889
start	特定のサービスが自動的に開始されるかどうかを指定する。	true: サービスは自動的に開始される。 false: サービスは自動的に開始されない。 デフォルト: true

注意: **max-thread-queue** を超過した場合、サービスは新しいリクエストに対して「500 Server Too Busy」というメッセージで応答します。

content-server 要素

コンテンツ・ファイルを処理する標準 HTTP サーバーの操作パラメータを指定します。

属性	用途	値およびデフォルト
master-url	コンテンツ・サーバー・インスタンスがイベント通知を受信するマスター・ホストの URL を指定する。null または未指定の場合、サービスはマスターへの接続を試行しない。	URL: ポート ポートのデフォルトは 8880
max-threads	このサービスが作成できるリクエスト処理スレッドの最大数を指定する。指定されたスレッド数を超過することはない。	整数 デフォルト: 30
max-thread-queue	バックログされるリクエストの最大許容数を指定する。	整数 デフォルト: 400
min-threads	このサービスの開始時にサービスによって作成されるリクエスト処理スレッドの初期数を指定する。指定された数のスレッドが常に開始される。	整数 デフォルト: 2
port	コンテンツ・サーバーがリスニングするポートを指定する。	有効なポート番号 デフォルト: 8891
remote-host	コンテンツの処理に使用される外部ホストを指定する。 Connection Server によって配信されるローカル・コンテンツを指定する URL は、コンテンツ・サーバーのかわりにここで指定されたホストを指定するように変更される。 remote-host 属性は、<options> 要素で指定することもできる。これは、下位互換性に関連する属性の特別な使用方法である。	有効なホスト名 デフォルト: なし
self-url	コンテンツ・サーバーがマスターからのイベント通知を受信するために使用する URL およびポートを指定する。一部の DHCP 環境のように、IP アドレスが確実に同じマシンを指定するとかぎらない場合には、使用することを推奨する。	URL: ポート null または未指定の場合、Connection Server の現在の ITP アドレスに基づいて値が決定される。
ssl-port	Secure Sockets Layer (SSL) セキュリティで保護された通信に関して、コンテンツ・サーバーがリスニングするポートを指定する。	有効なポート番号 デフォルト: 8894
start	コンテンツ・サーバー・サービスが自動的に開始されるかどうかを指定する。	true または false デフォルト: true (自動開始)

ice-server 要素

ICE サーバーの操作パラメータを指定します。ICE サーバーは、ICE プロトコルを使用してオファー、サブスクリプションおよび更新を処理するサービスです。

属性	用途	値およびデフォルト
master-url	ICE サーバーがイベント通知を受信するマスター・ホストの URL を指定する。null または未指定の場合、サービスはマスターへの接続を試行しない。	URL: ポート ポートのデフォルトは 8880
max-threads	このサービスが作成できるリクエスト処理スレッドの最大数を指定する。指定されたスレッド数を超過することはない。	整数 デフォルト: 7
max-thread-queue	バックログされるリクエストの最大許容数を指定する。	整数 デフォルト: 30
min-threads	このサービスの開始時にサービスによって作成されるリクエスト処理スレッドの初期数を指定する。指定された数のスレッドが常に開始される。	整数 デフォルト: 7
port	ICE サーバー・サービスがリスニングするポートを指定する。	有効なポート番号 デフォルト: 8890
self-url	このホストがマスター・ホストからのイベント通知を受信するために使用する URL およびポートを指定する。一部の DHCP 環境のように、IP アドレスが確実に同じマシンを指定するとかぎらない場合には、使用することを推奨する。	完全修飾された URL およびポート番号。 例: <code>http://your_url:7575</code> null または未指定の場合、IP アドレスに基づいて値が決定される。
ssl-port	Secure Sockets Layer (SSL) セキュリティで保護された通信に関して、ICE サーバーがリスニングするポートを指定する。	有効なポート番号 デフォルト: 8893
start	ICE サーバー・サービスが自動的に開始されるかどうかを指定する。	true: ICE サービスは自動的に開始される。 false: ICE サービスは自動的に開始されない。 デフォルト: true

master-server 要素

イベント配信の操作パラメータを指定します。イベント配信は、複数のホストがある環境で Connection Server コンポーネント間で通知を送信できるようにするサービスです。

属性	用途	値およびデフォルト
accept-unlisted	<p>マスター（イベント送信）ホストが、リストされていないスレーブ（受信）ホストによるイベント通知の登録を許可するかどうかを指定する。</p> <p>未登録のスレーブは、マスターの起動時に自動的に再接続されない。そのため、自動的に同期されない。</p>	<p>true: 未登録のスレーブからマスターへの接続が受け入れられる。</p> <p>false: 登録済のスレーブのみマスターへの接続が受け入れられる。</p> <p>デフォルト : false</p>
authentication-id	この属性を使用すると、分散アーキテクチャ内の様々なサーバーが相互認証のために使用するログインを指定できる。	Connection Server のログイン / ユーザー名には、ASCII 文字のみを使用する必要がある。
authentication-pass	この属性を使用すると、分散ネットワーク内の様々なサーバーが相互認証のために使用するパスワードを指定できる。	Connection Server のパスワードには、ASCII 文字のみを使用する必要がある。
master-url	2つのマスター・サーバーの相互通信を可能にする。この相互通信は、複数のマシンで潜在的に変更が発生している場合に必要。	完全修飾された URL およびポート番号。
port	マスター・ホストがリスニングするポートを指定する。	有効なポート番号。 デフォルト : 8880
receivern	イベント受信スレーブ・ホストの URL のリストを指定する。accept-unlisted が false の場合、各スレーブでイベントを受信するにはリストに含める必要がある。推奨構成。	receivern。n は 1 で始まる整数値。 デフォルト : なし
self-url	2つのマスター・サーバーの相互通信を可能にする。この相互通信は、複数のマシンで潜在的に変更が発生している場合に必要。	完全修飾された URL およびポート番号。
shutdown-slaves	マスター・サーバーの停止時または再起動時にスレーブに通知するかどうかを指定する。true の場合は、様々なスレーブも停止または再起動する。	デフォルト : true
start	マスター・サービスを自動的に開始するかどうかを指定する。	<p>true: マスター・サービスが自動的に開始する。</p> <p>false: マスター・サービスが自動的に開始しない。</p> <p>デフォルト : true</p>

database 要素

ほとんどの JDBC ドライバのドキュメントには、特定の JDBC ドライバに接続するためのプログラムに必要な Java コードの詳細が含まれています。一般的に、共通する 4 つの操作があります。これらの操作は、それぞれ構成ファイルで指定できます。各ドライバですべての操作が必要になるわけではありません。

- 使用する JDBC ドライバの選択
- ドライバの登録方法の選択
- データベースへの接続に使用する JDBC URL の選択
- JDBC URL で指定されていない追加のパラメータの設定

database 要素およびその子要素である `driver`、`user` および `property` を使用することで、Connection Server が JDBC ドライバを使用してデータベースに接続できるようになります。

属性	用途	値およびデフォルト
<code>max-connections</code>	許可されるデータベース接続の最大数	整数 >0 デフォルト: 9
<code>max-retries</code>	一度失敗したデータベース操作のリトライ回数	デフォルト: 3
<code>retry-delay</code>	データベース・リトライの間隔 (ミリ秒単位)	データベース・リトライの間隔 (ミリ秒単位)

次の例は、これらの要素の記述を示しています。構成ファイルの `database` セクションは、Connection Server ソフトウェアに同梱されている構成ファイルに含まれています。

```
<database type="dbtype" max-connections=9/>
  <driver jdbcURL="jdbc:oracle:kinecta_ice"
    driver="oracle.jdbc.driver.OracleDriver"/>
  <user username="user" password="pass"/>
  <property key="debug-level" value="2"/>
  <property key="keyname" value="5"/>
</database>
```

属性	用途	値およびデフォルト
<code>driver</code>	JDBC ドライバの名前	ドライバは、 <code>classpath</code> に含まれているか、Connection Server が稼働する環境からアクセス可能であることが必要。
<code>jdbcURL</code>	データベースへの接続に使用する JDBC URL	<code>jdbcURL="jdbc:odbc:kinecta_ice"</code> プロパティは、 <code><property></code> 要素の <code>System.setProperties()</code> メソッドを使用して構成ファイルで設定できる。
<code>username</code>	データベースにログインするためのユーザー名	デフォルト: <code>username="user"</code>
<code>password</code>	データベースにログインするためのユーザー・パスワード	デフォルト: <code>password="pass"</code>

content-sources 要素

content-source 要素を使用すると、カスタム・コンテンツ・ソース・モニターを追加できます。factory 要素はこの要素の子です。詳細および使用例は、『Replication Customization Guide』を参照してください。

extensions 要素

この項では extensions 要素および次のサブ要素について説明します。

factory 要素

extensions 要素は、Connection Server にカスタムの拡張機能を追加する場合に使用します。この要素を含めるかどうかは完全にオプションです。含めた場合は、通常、カスタム・コンテンツ・ソース・モニターおよびアダプタの追加が有効化されます。SDK にはこのような例が含まれています。extensions 要素は、**com.kinecta.syndicator.extension** を実装するクラスを指定します。この要素の子要素は、**factory** (任意の数字、もしくはなし) です。

属性	用途	値およびデフォルト
class	拡張機能用に起動する Java クラス名	この拡張機能に対して有効な Java クラス名
param	起動時に Java クラスに渡される情報	拡張機能に渡す任意の文字列

factory 要素

factory 要素は、com.kinecta.syndicator.extensionfactory を実装し、extensions 要素および content-sources 要素の両方の子になります。子要素はありません。

属性	用途	値およびデフォルト
class	ファクトリ用に起動する Java クラス名	このファクトリに対して有効な Java クラス名
param	起動時に Java クラスに渡される情報	ファクトリに渡す任意の文字列

ldap 要素

ldap 要素を使用すると、Connection Server が LDAP モードで起動します。このモードでは、LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) データベースに対して検証することで、Connection Server がユーザー・レコードをインポートおよび削除できます。

注意: Connection Server が LDAP データベースに対して直接認証することはありません。

属性	用途	値およびデフォルト
ldap-enabled	LDAP モードで実行するかどうかを Connection Server に指示する。	true または false (デフォルトなし)
ldapURL	LDAP サーバーの IP アドレスおよびポートを指定する。	ldap://your_IP_address:389
username	JNDI 接続を確立するために、LDAP 管理者のユーザー名を指定する。	管理者権限を持つユーザー名。 iPlanet LDAP サーバーのデフォルトは次のとおり。 "cn=Directory Manager"

属性	用途	値およびデフォルト
userpassword	JNDI 接続を確立するために、LDAP 管理者のパスワードを指定する。	前述のユーザー名に対応するパスワード。
rolebase	ロール・マッチングのための検索の基礎を形成する LDAP 要素を指定する。	デフォルト： "cn=KinectaAdminGroup, ou=Groups, dc=ldap_server_domain_name_element, ... dc=ldap_server_domain_name_element"
rolename	ロール名が含まれている LDAP サーバー属性の名前を指定する。	例： "cn"
rolesearch	LDAP レルムでロールを選択するための LDAP 検索パターンを指定する。	例： "cn" rolesearch="(uniquemember={0})"
digest	パスワードの格納に使用するダイジェスト・アルゴリズムを指定する。	デフォルト： "CLEAR"
rolesubtree	サブ要素を検索するかどうかを指定する。	true: rolebase によって選択された要素のサブツリーをロール検索で検索する場合 false: 最上位の要素のみを検索する場合
passwordname	パスワードが含まれている LDAP サーバー属性の名前を指定する。	形式は digest 属性の設定によって異なる。 デフォルト： passwordname="userpassword"
userpattern	LDAP レルムでユーザーを選択するための検索パターンを指定する。	取得対象のユーザーに対応する識別名 (dn) のパターンとして、 {0} を使用する。 例： userpattern="uid={0},ou=People,dc=your_domain,dc=com"

j2ee 要素

この項では j2ee 要素および次のサブ要素について説明します。

- [knet 要素](#)
- [license-server host 要素](#)
- [knet-server host 要素](#)
- [soap-server host 要素](#)
- [tracking-server host 要素](#)
- [clickthru-server 要素](#)

j2ee 要素の属性

j2ee 要素は、(J2EE 準拠の) WebLogic アプリケーション・サーバー内で Web アプリケーションとして実行する場合の Connection Server の動作を制御します。この要素には次の属性が含まれます。

属性	用途	値およびデフォルト
initContextFactory	JNDI サービスを使用してオブジェクトのルックアップおよび検出を行えるように、ネーミング・コンテキストを実装するクラスの名前。このクラス名は、使用する JNDI サービスによって異なる。	
appServerURL	アプリケーション・サーバーにアクセスするための (プロトコルおよびポートを含む) 完全な URL。この URL は、アプリケーション・サーバーからの EJB およびその他のリソースの検索に使用される。	デフォルト : t3://localhost:7001/
docRoot	Web アプリケーションのドキュメント・ルート。Web アプリケーションは、この場所からクライアントに JSP ページおよび HTML ページを提供する。	例 : <i>installation_path/webpages/syndicator</i> (<i>installation_path</i> は、Connection Server がインストールされているローカル・ディレクトリを指定する。)
resourcePath	インストールされている Web アプリケーションのルート。Web アプリケーションは、このパスを使用して、他のリソース (構成ファイルなど) を検索する。	例 : <i>installation_path</i>
ejbAccessUser	ejbAccessUserPasswd とともに、アプリケーション・サーバーでの EJB の検索に必要なユーザー資格証明を指定する。 Web アプリケーションでシステム管理者のログイン / パスワードを変更した場合は、これらのデフォルトを変更して一致させる必要がある。	デフォルト : administrator

属性	用途	値およびデフォルト
ejbAccessUserPasswd	ejbAccessUser の値に対応するパスワード。	デフォルト： administrator
virtualDir	Web アプリケーションの名前。管理上の目的に使用される。アプリケーション・サーバーで Web アプリケーションがデプロイされる際の名前と一致する必要がある。	例： virtualDir=ConnectionServer

knet 要素

knet 要素は、Connection Server を適切な Sellent Subscription Client Deployment Server に送ります。knet 要素には、license-server host、knet-server host、soap-server host、tracking-server host および clickthru-server の 5 つの子要素があります。

license-server host 要素

license-server host 子要素は、Connection Server および Subscription Client の起動時にライセンスをチェックするサービスのホスト情報を指定します。

属性	用途	値およびデフォルト
host	license-server host の URL を指定する。	http:// <i>your_url</i>
port	ライセンス・サーバーへのアクセスに使用するポートを指定する。	構成可能だが、通常はアプリケーション・サーバーと同じポートを共有する。

knet-server host 要素

knet-server host 子要素は、Subscription Client Deployment Server 自体のホスト情報を指定する。

属性	用途	値およびデフォルト
host	Subscription Client Deployment Server ホストの URL を指定する。	http:// <i>your_url</i>
port	Subscription Client Deployment Server へのアクセスに使用するポートを指定する。	構成可能だが、通常はアプリケーション・サーバーと同じポートを共有する。

soap-server host 要素

soap-server host 子要素は、SOAP (Simple Object Access Protocol) サーバーのホスト情報を指定します。SOAP プロトコルは、Subscription Client Deployment Server と Connection Server の間の通信に使用されます。

属性	用途	値およびデフォルト
host	SOAP サーバーのホストの URL を指定する。	http://your_url
port	SOAP サーバーへのアクセスに使用するポートを指定する。	構成可能だが、通常はアプリケーション・サーバーと同じポートを共有する。

tracking-server host 要素

tracking-server host 子要素は、Content Matrix サービスをホストするサーバーを識別します。

属性	用途	値およびデフォルト
host	Content Metrics サーバーのホストの URL を指定する。	http://your_url
port	Content Metrics サーバーへのアクセスに使用するポートを指定する。	構成可能だが、通常はアプリケーション・サーバーと同じポートを共有する。

clickthru-server 要素

clickthru-server 子要素は、Content Matrix のクリックスルー・トラッキング・サービスをホストするサーバーを識別します。

属性	用途	値およびデフォルト
host	Content Metrics クリックスルー・サーバーのホストの URL を指定する。	http://your_url
port	Content Metrics クリックスルー・サーバーのホストへのアクセスに使用するポートを指定する。	構成可能だが、通常はアプリケーション・サーバーと同じポートを共有する。

サード・パーティ・ライセンス

概要

この付録では、この製品に含まれるすべてのサード・パーティ製品のサード・パーティ・ライセンスを示します。

- [Apache Software License](#) (B-2 ページ)
- [W3C® Software Notice and License](#) (B-3 ページ)
- [Zlib License](#) (B-4 ページ)
- [General BSD License](#) (B-5 ページ)
- [General MIT License](#) (B-5 ページ)
- [Unicode License](#) (B-6 ページ)
- [その他の帰属](#) (B-7 ページ)

Apache Software License

```
* Copyright 1999-2004 The Apache Software Foundation.
* Licensed under the Apache License, Version 2.0 (the "License");
* you may not use this file except in compliance with the License.
* You may obtain a copy of the License at
*   http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0
*
* Unless required by applicable law or agreed to in writing, software
* distributed under the License is distributed on an "AS IS" BASIS,
* WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, either express or implied.
* See the License for the specific language governing permissions and
* limitations under the License.
```

W3C® Software Notice and License

* Copyright © 1994-2000 World Wide Web Consortium,
* (Massachusetts Institute of Technology, Institut National de
* Recherche en Informatique et en Automatique, Keio University).
* All Rights Reserved. <http://www.w3.org/Consortium/Legal/>
*

* This W3C work (including software, documents, or other related items) is
* being provided by the copyright holders under the following license. By
* obtaining, using and/or copying this work, you (the licensee) agree that
* you have read, understood, and will comply with the following terms and
* conditions:
*

* Permission to use, copy, modify, and distribute this software and its
* documentation, with or without modification, for any purpose and without
* fee or royalty is hereby granted, provided that you include the following
* on ALL copies of the software and documentation or portions thereof,
* including modifications, that you make:
*

* 1. The full text of this NOTICE in a location viewable to users of the
* redistributed or derivative work.
*

* 2. Any pre-existing intellectual property disclaimers, notices, or
terms
* and conditions. If none exist, a short notice of the following form
* (hypertext is preferred, text is permitted) should be used within
the
* body of any redistributed or derivative code: "Copyright ©
* [\$date-of-software] World Wide Web Consortium, (Massachusetts
* Institute of Technology, Institut National de Recherche en
* Informatique et en Automatique, Keio University). All Rights
* Reserved. <http://www.w3.org/Consortium/Legal/>"
*

* 3. Notice of any changes or modifications to the W3C files, including
the
* date changes were made. (We recommend you provide URIs to the
location
* from which the code is derived.)
*

* THIS SOFTWARE AND DOCUMENTATION IS PROVIDED "AS IS," AND COPYRIGHT
HOLDERS
* MAKE NO REPRESENTATIONS OR WARRANTIES, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT
* NOT LIMITED TO, WARRANTIES OF MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR ANY
PARTICULAR
* PURPOSE OR THAT THE USE OF THE SOFTWARE OR DOCUMENTATION WILL NOT
INFRINGE

* ANY THIRD PARTY PATENTS, COPYRIGHTS, TRADEMARKS OR OTHER RIGHTS.
*
* COPYRIGHT HOLDERS WILL NOT BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, SPECIAL OR
* CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF ANY USE OF THE SOFTWARE OR
* DOCUMENTATION.
*
* The name and trademarks of copyright holders may NOT be used in
advertising
* or publicity pertaining to the software without specific, written prior
* permission. Title to copyright in this software and any associated
* documentation will at all times remain with copyright holders.
*

Zlib License

* zlib.h -- interface of the 'zlib' general purpose compression library
version 1.2.3, July 18th, 2005

Copyright (C) 1995-2005 Jean-loup Gailly and Mark Adler

This software is provided 'as-is', without any express or implied
warranty. In no event will the authors be held liable for any damages
arising from the use of this software.

Permission is granted to anyone to use this software for any purpose,
including commercial applications, and to alter it and redistribute it
freely, subject to the following restrictions:

1. The origin of this software must not be misrepresented; you must not
claim that you wrote the original software. If you use this software
in a product, an acknowledgment in the product documentation would be
appreciated but is not required.
2. Altered source versions must be plainly marked as such, and must not
be
misrepresented as being the original software.
3. This notice may not be removed or altered from any source
distribution.

Jean-loup Gailly jloup@gzip.org

Mark Adler madler@alumni.caltech.edu

General BSD License

Copyright (c) 1998, Regents of the University of California

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

"Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

"Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

"Neither the name of the <ORGANIZATION> nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

General MIT License

Copyright (c) 1998, Regents of the Massachusetts Institute of Technology

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

Unicode License

UNICODE, INC. LICENSE AGREEMENT - DATA FILES AND SOFTWARE

Unicode Data Files include all data files under the directories <http://www.unicode.org/Public/>, <http://www.unicode.org/reports/>, and <http://www.unicode.org/cldr/data/>. Unicode Software includes any source code published in the Unicode Standard or under the directories <http://www.unicode.org/Public/>, <http://www.unicode.org/reports/>, and <http://www.unicode.org/cldr/data/>.

NOTICE TO USER: Carefully read the following legal agreement. BY DOWNLOADING, INSTALLING, COPYING OR OTHERWISE USING UNICODE INC.'S DATA FILES ("DATA FILES"), AND/OR SOFTWARE ("SOFTWARE"), YOU UNEQUIVOCALLY ACCEPT, AND AGREE TO BE BOUND BY, ALL OF THE TERMS AND CONDITIONS OF THIS AGREEMENT. IF YOU DO NOT AGREE, DO NOT DOWNLOAD, INSTALL, COPY, DISTRIBUTE OR USE THE DATA FILES OR SOFTWARE.

COPYRIGHT AND PERMISSION NOTICE

Copyright © 1991-2006 Unicode, Inc. All rights reserved. Distributed under the Terms of Use in <http://www.unicode.org/copyright.html>.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of the Unicode data files and any associated documentation (the "Data Files") or Unicode software and any associated documentation (the "Software") to deal in the Data Files or Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, and/or sell copies of the Data Files or Software, and to permit persons to whom the Data Files or Software are furnished to do so, provided that (a) the above copyright notice(s) and this permission notice appear with all copies of the Data Files or Software, (b) both the above copyright notice(s) and this permission notice appear in associated documentation, and (c) there is clear notice in each modified Data File or in the Software as well as in the documentation associated with the Data File(s) or Software that the data or software has been modified.

THE DATA FILES AND SOFTWARE ARE PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OF THIRD PARTY RIGHTS. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR HOLDERS INCLUDED IN THIS NOTICE BE LIABLE FOR ANY CLAIM, OR ANY SPECIAL INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES, OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THE DATA FILES OR SOFTWARE.

Except as contained in this notice, the name of a copyright holder shall not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings in these Data Files or Software without prior written authorization of the copyright holder.

Unicode and the Unicode logo are trademarks of Unicode, Inc., and may be registered in some jurisdictions. All other trademarks and registered trademarks mentioned herein are the property of their respective owners

その他の帰属

Adobe, Acrobat, and the Acrobat Logo are registered trademarks of Adobe Systems Incorporated.

FAST Instream is a trademark of Fast Search and Transfer ASA.

HP-UX is a registered trademark of Hewlett-Packard Company.

IBM, Informix, and DB2 are registered trademarks of IBM Corporation.

Jaws PDF Library is a registered trademark of Global Graphics Software Ltd.

Kofax is a registered trademark, and Ascent and Ascent Capture are trademarks of Kofax Image Products.

Linux is a registered trademark of Linus Torvalds.

Mac is a registered trademark, and Safari is a trademark of Apple Computer, Inc.

Microsoft, Windows, and Internet Explorer are registered trademarks of Microsoft Corporation.

MrSID is property of LizardTech, Inc. It is protected by U.S. Patent No. 5,710,835. Foreign Patents Pending.

Oracle is a registered trademark of Oracle Corporation.

Portions Copyright © 1994-1997 LEAD Technologies, Inc. All rights reserved.

Portions Copyright © 1990-1998 Handmade Software, Inc. All rights reserved.

Portions Copyright © 1988, 1997 Aladdin Enterprises. All rights reserved.

Portions Copyright © 1997 Soft Horizons. All rights reserved.

Portions Copyright © 1995-1999 LizardTech, Inc. All rights reserved.

Red Hat is a registered trademark of Red Hat, Inc.

Sun is a registered trademark, and Sun ONE, Solaris, iPlanet and Java are trademarks of Sun Microsystems, Inc.

Sybase is a registered trademark of Sybase, Inc.

UNIX is a registered trademark of The Open Group.

Verity is a registered trademark of Autonomy Corporation plc

A

absolute-to-relative job 要素, 4-3
accept-unlisted, A-14
action 属性, 4-8
admin, A-10
admin-server 属性, A-11
 max-thread-queue, A-11
 max-threads, A-11
 min-threads, A-11
 port, A-11
 start, A-11
analyzer, A-7
append-extension 属性, 4-10
appServerURL, A-18
atomic-use job 要素, 4-3
audit, A-7
authentication
 説明, 4-12
authentication-id, A-14
authentication-pass, A-14
authentication 要素, 4-12
 password, 4-12
 username, 4-12
auto-upgrade, A-7

B

baseref job 要素, 4-2
browser-path, A-2

C

change-extension 属性, 4-10
change-path-regex 属性, 4-10
class, A-16
 factory 要素
 class, A-16
clickthru-server 要素, A-20
cmd トリガー, 4-13
 構文, 4-13
cmd フィルタ
 error-exit-code, 4-11
 success-exit-code, 4-11
 use-input-as-output, 4-11
cmd フィルタ・タイプ, 4-11
content-browsing, A-2
content-server 要素, A-12

 master-url, A-12
 max-thread-queue, A-12
 max-threads, A-12
 min-threads, A-12
 port, A-12
 remote-host, A-12
 self-url, A-12
 ssl-port, A-12
 start, A-12
content-sources 要素, A-16
critical, A-7
csm.dirs, A-7
csm.files, A-7
csm.sitestudio ログイン機能, 3-7
csm.web, A-7
csm.web ログイン機能, 3-7

D

database, A-7
database 要素, A-15
 driver, A-15
 jdbcURL, A-15
 max-collection, A-15
 max-retries, A-15
 password, A-15
 retry-relay, A-15
 username, A-15
database ログイン機能, 3-7
dataobject, A-8
dataobject ログイン機能, 3-7
date-time, A-8
date-time ログイン機能, 3-7
debug, A-7
default, A-6
defaults ベース要素, 4-2
delivery, A-8
delivery.ftp, A-8
delivery.ftp ログイン機能, 3-7
delivery.ice, A-8
delivery.ice ログイン機能, 3-7
delivery.mail, A-8
delivery ログイン機能, 3-7
digest, A-17
dir 属性, 4-5
docRoot, A-18
download-base, A-3
driver, A-15

DTD

- filter 要素, 4-17
- job 要素, 4-17

E

- editable job 要素, 4-4
- ejb, A-8
- ejbAccessUser, A-18
- ejbAccessUserPasswd, A-19
- enable, A-10
- error, A-7
- error-exit-code 属性, 4-11
- event, A-8
- event ロギング機能, 3-7
- extension 要素
 - class, A-16
 - param, A-16

F

- factory 要素, A-16
- filewatcher-checksum, A-3
- filter, A-8
- filterset 要素, 4-7
 - action, 4-8
 - hostname, 4-8
 - path, 4-8
 - pathfiltertype, 4-8
 - port, 4-8
 - 説明, 4-7
- filter 要素
 - append-extension, 4-10
 - change-extension, 4-10
 - change-path-regex, 4-10
 - no-save, 4-10
 - src, 4-10
 - type, 4-10
 - 説明, 4-10
- FTP サーバー, 3-4
 - サブディレクトリ, 3-4
 - 場所, 3-4
 - パスワード, 3-4
 - ポート番号, 3-4
 - ユーザー名, 3-4

H

- host, A-9
- hostname, A-3
- hostname 属性, 4-8
- httpd, A-8
- httpd.content, A-8
- httpd.content ロギング機能, 3-7
- httpd.tomcat, A-8
- httpd.tomcat ロギング機能, 3-7
- httpd ロギング機能, 3-7
- http-post トリガー, 4-14
 - 構文, 4-14

I

- ICE, 3-8, A-8

- 期間書式, 4-6
- 日付時間書式, 4-6

- ice-cache, A-8
- ice-cache-silence-time-out, A-4
- ice-cache-size, A-4
- ice-cache-update-interval, A-4
- ice-cache ロギング機能, 3-8
- ice-delivery-rule
 - maxfreq, 4-5
 - minfreq, 4-5
 - monthday, 4-6
 - startdate, 4-6
 - starttime, 4-6
 - stopdate, 4-6
 - weekday, 4-6
- ice-delivery-rule 要素, 4-5
- ice-failover-adjustment, A-4
- ice-server 要素, A-13
 - master-url, A-13, A-14
 - max-thread-queue, A-13
 - max-threads, A-13
 - min-threads, A-13
 - port, A-13
 - self-url, A-13, A-14
 - ssl-port, A-13
 - start, A-13
- info, A-7
- initContextFactory, A-18
- ip-status job 要素, 4-4

J

- j2ee 要素, A-18
 - appServerURL, A-18
 - docRoot, A-18
 - ejbAccessUser, A-18
 - ejbAccessUserPasswd, A-19
 - initContextFactory, A-18
 - resourcePath, A-18
 - virtualDir, A-19
- java トリガー, 4-15
 - 構文, 4-15
 - プログラミング, 4-15
- java フィルタ・タイプ, 説明, 4-12
- JDBC, A-15
- JDBC, 概要, A-15
- jdbcURL, A-15
- job ベース要素, 4-2
- job 要素, 4-3
 - absolute-to-relative, 4-3
 - atomic-use, 4-3
 - baseref, 4-2
 - editable, 4-4
 - filterset 子要素, 4-7
 - ice-delivery-rule 子要素, 4-5
 - ip-status, 4-4
 - localdir 子要素, 4-5
 - max-depth, 4-2
 - max-pages, 4-2
 - mmstohttp, 4-3
 - offer-name, 4-3
 - password, 4-2
 - pnmtohttp, 4-3

- pnmtopnm, 4-3
- rights-holder, 4-4
- showcredit, 4-4
- subscription-id, 4-3
- subscription-state, 4-3
- url, 4-2
- usage-required, 4-4
- user-agent, 4-2
- username, 4-2

K

- keystorefilename, A-10
- keystorepass, A-10
- knet-server host 要素, A-19
- knet 要素, A-19
- KTL, A-8

L

- ldap, A-8
- ldap-enabled, A-16
- ldapURL, A-16
- ldap 要素, A-16
 - digest, A-17
 - ldap-enabled, A-16
 - ldapURL, A-16
 - passwordname, A-17
 - rolebase, A-17
 - rolename, A-17
 - rolesearch, A-17
 - rolesubtree, A-17
 - username, A-16
 - userpassword, A-17
 - userpattern, A-17
- license-server host 要素, A-19
- localdir 子要素, 4-5
 - dir 属性, 4-5
- logging, A-8
- login, A-8
- log 要素, A-6
 - default, A-6
 - overwrite, A-6

M

- master-server 要素, A-14
 - accept-unlisted, A-14
 - authentication-id, A-14
 - authentication-pass, A-14
 - receivern, A-14
 - shutdown-slaves, A-14
 - start, A-14
- master-url, A-12, A-13, A-14
- max-connections, A-15
- max-depth job 要素, 4-2
- maxfreq 属性, 4-5
- max-package-size, A-4
- max-pages job 要素, 4-2
- max-push-retry, A-5
- max-push-threads, A-5
- max-retries, A-15
- max-thread-queue, A-11, A-12, A-13

- max-threads, A-11, A-12, A-13
- minfreq 属性, 4-5
- min-push-threads, A-5
- min-threads, A-11, A-12, A-13
- mmstohttp job 要素, 4-3
- mmstomms, 4-3
- mmstomms job 要素, 4-3
- monthday 属性, 4-6

N

- no-save 属性, 4-10

O

- offer-name job 要素, 4-3
- options 要素, A-2, A-19
 - browser-path, A-2
 - content-browsing, A-2
 - download-base, A-3
 - filewatcher-checksum, A-3
 - hostname, A-3
 - ice-cache-silence-time-out, A-4
 - ice-cache-size, A-4
 - ice-cache-update-interval, A-4
 - ice-failover-adjustment, A-4
 - max-package-size, A-4
 - max-push-retry, A-5
 - max-push-threads, A-5
 - min-push-threads, A-5
 - run-interactive, A-5
 - start-browser, A-5
- overwrite, A-6

P

- packagemanager ログイン機能, 3-8
- param, A-16
 - factory 要素
 - param, A-16
- password, A-9, A-15
- password job 要素, 4-2
- passwordname, A-17
- pathfiltertype 属性, 4-8
- path 属性, 4-8
- pnmttohttp job 要素, 4-3
- pnmtopnm job 要素, 4-3
- port, A-9, A-11, A-12, A-13
- port 属性, 4-8
- proxysset, A-9
- proxy 要素, A-9
 - host, A-9
 - password, A-9
 - port, A-9
 - proxysset, A-9
 - ssl-port, A-9
 - username, A-9
- Publishing Utility
 - システム要件, 2-1

R

- receivern, A-14

regex フィルタ・タイプ, 4-11
remote-host, A-12
replicator, A-8
replicator ログイン機能, 3-8
required, A-10
resourcePath, A-18
retry-delay, A-15
rights-holder job 要素, 4-4
rolebase, A-17
rolename, A-17
rolesearch, A-17
rolesubtree, A-17
root 要素, A-2
run-interactive, A-5

S

scheduler, A-8
scheduler ログイン機能, 3-8
security, A-8
security ログイン機能, 3-8
self-url, A-12, A-13, A-14
serializer, A-9
Server CGI URL, 3-2
services 要素, A-11
showcredit job 要素, 4-4
shutdown-slaves, A-14
Site Studio Publishing Utility, 1-1
soap, A-9
soap-server host 要素, A-20
soap.service ログイン機能, 3-8
src 属性, 4-10
ssl-port, A-9, A-12, A-13
ssl 要素, A-10
 admin, A-10
 enable, A-10
 keystorefilename, A-10
 keystorepass, A-10
 required, A-10
start, A-11, A-12, A-13, A-14
start-browser, A-5
startdate 属性, 4-6
starttime 属性, 4-6
Stellent Site Studio
 Web サイトのバブリッシュ, 1-1
stopdate 属性, 4-6
Subscription Client, 2-1
subscription-id job 要素, 4-3
subscription-state job 要素, 4-3
success-exit-code 属性, 4-11
sweeper, A-9
syndicator, A-9
syndicator ログイン機能, 3-8

T

template, A-9
template ログイン機能, 3-8
timeFormat 要素, A-6
tracking-server host 要素, A-20
type 属性, 4-10

U

ui, A-9
ui.validation ログイン機能, 3-8
ui.web ログイン機能, 3-8
URL
 Microsoft Netshow サーバー, 4-3
 RealAudio, 4-3
url job 要素, 4-2
usage-required job 要素, 4-4
use-input-as-output 属性, 4-11
user-agent job 要素, 4-2
username, A-9, A-15, A-16
username job 要素, 4-2
userpassword, A-17
userpattern, A-17

V

verbose, A-7
virtualDir, A-19

W

warning, A-7
Web サイト
 バブリッシュ, 1-1
weekday 属性, 4-6

X

xml, A-9
xml ログイン機能, 3-8
xsl フィルタ・タイプ, 説明, 4-12

あ

アトミック配信オプション, 3-2

え

エラー, 3-6

か

カスタム・ログイン, 3-6, 3-7
管理ガイド
 表記規則, 1-4

き

期間書式, 4-6
既存のログ・ファイルへの追加, 3-7
機能
 analyzer, A-7
 audit, A-7
 auto-upgrade, A-7
 csm.dirs, A-7
 csm.files, A-7
 csm.web, A-7
 database, A-7
 dataobjects, A-8
 date-time, A-8

delivery, A-8
delivery.ftp, A-8
delivery.ice, A-8
delivery.mail, A-8
ejb, A-8
event, A-8
filter, A-8
httpd, A-8
httpd.content, A-8
httpd.tomcat, A-8
ICE, 3-8, A-8
ice-cache, A-8
KTL, A-8
ldap, A-8
logging, A-8
login, A-8
replicator, A-8
scheduler, A-8
security, A-8
serializer, A-9
soap, A-9
sweeper, A-9
syndicator, A-9
template, A-9
ui, A-9
xml, A-9
ロギング・レベル, A-7

け

警告, 3-6

こ

更新スケジュール
更新間隔, 3-3
最後の更新時間, 3-3
最初の更新時間, 3-3
手動更新, 3-3
日付指定, 3-3
毎日, 3-3
曜日指定, 3-3
構成ファイル
admin-server 属性, A-6, A-11
content-server 要素, A-12
database 要素, A-15
filter 要素の DTD, 4-17
ice-server, A-13
job 要素の DTD, 4-17
log 要素, A-6
options 要素, A-2, A-19
proxy 要素, A-9
root 要素, A-2
ssl 要素, A-10
構文
cmd トリガー, 4-13
http-post トリガー, 4-14
java トリガー, 4-15

さ

サーバー ID, 3-9
サーバー UUID, 3-9

最後の更新, 3-2
サブスクリバ用サーバー URL, 3-9

し

時間形式, 3-10
重大, 3-6
手動更新, 3-3
詳細, 3-6
情報, 3-6
ジョブ・スケジュール, 3-2
ジョブの状態, 3-2

そ

属性
admin-server, A-11
属性, admin-server, A-6, A-11

つ

追加的配信オプション, 3-2

て

データベース・ページ, 3-9
データベース・ロギング, 3-6
デバッグ, 3-6
電子メール・ロギング, 3-6

と

同期配信オプション, 3-3
ドキュメント, 1-4
トリガー
サンプル, 4-16
トリガー, 説明, 4-13
トリガー・タイプ
cmd, 4-13
http-post, 4-14
java, 4-15

は

ページ・スケジュール
日付指定, 3-10
毎日, 3-10
曜日指定, 3-10
配信オプション
アトミック, 3-2
追加的, 3-2
同期, 3-3
配信ルール, ICE, 4-5
パブリッシュ先タイプ
FTP サーバー, 3-4
Subscription Client, 3-4

ひ

日付時間書式, 4-6

ふ

ファイルの処理

- サイズによるログ・ファイルのローテーション, 3-7
- ログ・ファイルの上書き, 3-7

ファイル・ロギング, 3-6, 3-7

フィルタ

- authentication 子要素, 4-12

- 構成, 4-7

- 説明, 4-7

フィルタ・タイプ

- cmd, 4-11

- java, 4-12

- regex, 4-11

- xsl, 4-12

プロキシ・サーバー, A-9, A-10

へ

ベース要素

- defaults, 4-2

- job, 4-2

- 説明, 4-2

よ

要素

- clickthru-server, A-20

- content-server, A-12

- content-sources, A-16

- database, A-15

- factory, A-16

- ice-server, A-13

- j2ee, A-18

- knet, A-19

- knet-server host, A-19

- ldap, A-16

- license-server host, A-19

- log, A-6

- master-server, A-14

- options, A-2, A-19

- proxy, A-9

- root, A-2

- services, A-11

- soap-server host, A-20

- ssl, A-10

- timeFormat, A-6

- tracking-server host, A-20

- コンテンツ・サーバー, A-12

- httpd.content, 3-7

- httpd.tomcat, 3-7

- ice-cache, 3-8

- packagemanager, 3-8

- replicator, 3-8

- scheduler, 3-8

- security, 3-8

- soap.service, 3-8

- syndicator, 3-8

- template, 3-8

- ui.validation, 3-8

- ui.web, 3-8

- xml, 3-8

ロギング・レベル, A-7

- critical, A-7

- debug, A-7

- error, A-7

- info, A-7

- verbose, A-7

- warning, A-7

- エラー, 3-6

- 警告, 3-6

- 重大, 3-6

- 詳細, 3-6

- 情報, 3-6

- デバッグ, 3-6

ロギング・レベル, 機能, A-7

ログの出力先

- カスタム・ロギング, 3-6

- 既存のログ・ファイルへの追加, 3-7

- データベース・ロギング, 3-6

- 電子メール・ロギング, 3-6

- ファイル・ロギング, 3-6

- ログ・ファイルの上書き, 3-7

ろ

ロギング機能, A-7

- csm.sitestudio, 3-7

- csm.web, 3-7

- database, 3-7

- dataobjects, 3-7

- date-time, 3-7

- delivery, 3-7

- delivery.ftp, 3-7

- delivery.ice, 3-7

- event, 3-7

- httpd, 3-7